



QNAP家庭用
メディアサーバー機能で

NASを使いこなそう！

どこでも
データ共有

顔認識で
写真管理

音楽・動画も
サクサク再生

データ保存や共有はもちろん、写真も動画もミュージックも！
「QNAP」家庭用メディアサーバー機能でNASを使いこなそう！

CONTENTS

データ保存や共有はもちろん、写真も動画もミュージックも!「QNAP」家庭用メディアサーバー機能でNASを使いこなそう!

1 NASとは?NASで何ができるの?

1.1 NASとは? 3
1.2 PCでもスマホでもタブレットでも便利に使えるNAS 3
1.3 どういったNASを選べばいいの? 4

2 QNAP NASの組み立て&セットアップ

2.1 NASにHDDを入れて組み立てよう 5
2.2 QTSを使ってセットアップしてみよう 7

3 QNAP NASならどこからでもデータに簡単アクセス

3.1 複数台のパソコンやスマートフォンでデータを同期したい!「Qsync」でNAS経由で端末を同期する 8
3.2 重要な情報だからこそ自己の管理下で受け渡したい!QNAPの共有リンクを使ってファイルを送信する 10
3.3 外出先からNASのデータにアクセスしたい!myQNAPcloudを使ったスマートフォンからのアクセス 10

4 QNAP NASで大切な写真をしっかり保存&整理しよう

4.1 自分だけの写真も共有したい写真もまとめてNASでしっかり管理 13
4.2 あの写真どこだっけ?そんなときの手がかりにQNAPの「顔認識」を活用しよう 15

5 QNAP NASで音楽を楽しもう

5.1 PCでもスマホでもオーディオ機器でも楽しめるジュークボックスとしてNASを活用しよう! 18

6 QNAPで動画をもっと自由に楽しもう

6.1 あのときの思い出もすぐに再生できる! NASで動画を効率的に管理しよう 22
6.2 お気に入りの動画を持ち歩きたい?トランスコードで動画をスマホに最適化しよう 25

7 QNAPで家中どこでもテレビで動画を楽しもう

7.1 テレビの横にNASはいかが?HD Stationで写真や動画をテレビで楽しむ 27
7.2 別の部屋のテレビでゆっくり動画を楽しみたい!メディアサーバー機能でネットワーク経由で動画を再生する 28

8 大切なデータをしっかりバックアップしよう

8.1 Windows PCを簡単バックアップ 30
8.2 Mac OS XのApple Time Machineをサポート 30
8.3 USBをつなぐだけのワンタッチコピー 30

1 NASとは?NASで何ができるの?

1.1 NASとは?

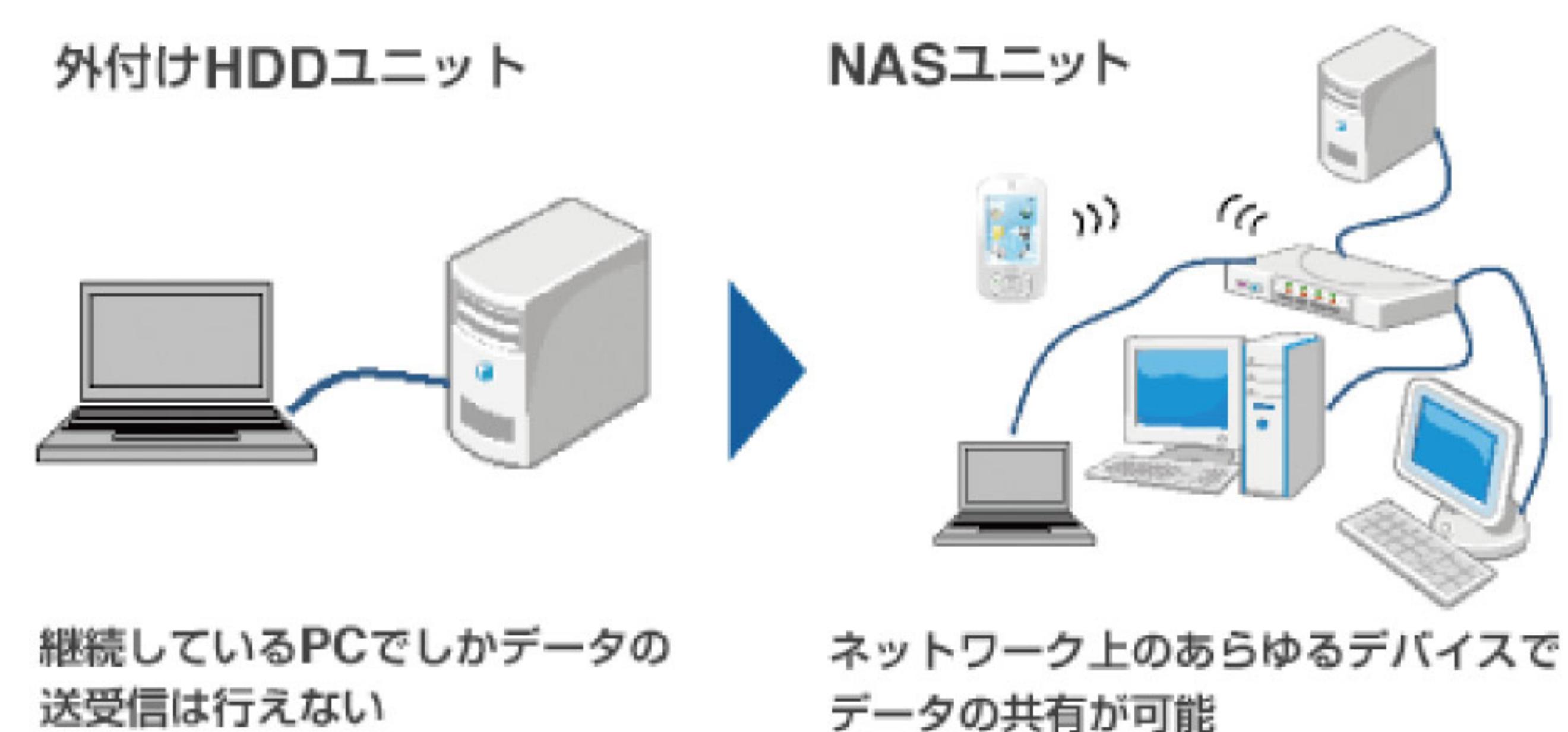
NASとは「Network Attached Storage」の略で、ネットワーク上に存在しているストレージのことです。基本的にネットワークに接続されているPCやノートPCなどのデジタルデバイスでNASを使うことができます。例えば、デスクトップPCで編集したデータをNASに保存し、WiFi接続のノートPCで同じデータを閲覧、共有することも簡単にできます。最近では、スマホ用のアプリも充実しており、スマートフォンからPCのデータを見る、スマホのデータをNASに保存する、といった使い方も手軽にできるようになりました。



NASを扱うことは難しいと思っている方もいらっしゃると思いますが、実際に触ってみると意外なほどシンプルな操作で使えることがお分かりいただけると思います。もちろん、RAIDによる運用や高度なセキュリティを構築するには、それなりの知識が必要ですが、QNAP NASなら直感的な操作画面「QTS」やスマホ用の設定アプリなども準備されているので、初めての方でも安心して使い始めることができます。

1.2 PCでもスマホでもタブレットでも便利に使えるNAS

NASはストレージなので、PCから利用する際には内蔵HDDや外付けHDDと同じような感覚で使えます。データの保存先やバックアップ先としてネットワークで接続された「NAS」を選ぶだけです。しかしNASが内蔵HDDや外付けHDDと異なるところはネットワークでつながれたストレージであるということです。つまり、ネットワーク接続しているデバイスであればノートPCやスマホ、タブレットなどからもNASのデータを活用することができます。設定次第で自分だけではなく、他の人とNASに保存してあるデータの一部を共有したり、家の外からもデータを参照することもできます。NASには強力なセキュリティが組み込まれているので、しっかり設定さえしておけば安心して使えます。



QNAPの豊富なアプリでスマホからも簡単操作

2 QNAP NASの組み立て&セットアップ

1.3 どういったNASを選べば良いの？

NASには大きく分けて2種類のタイプがあります。予めHDDが組み込まれていて一体化しているタイプのものと、HDDを別に用意するタイプの「NASキット」です。

QNAPのNASは後者のHDDを別に用意するタイプの「NASキット」です。このタイプのNASは自分で自由にHDDの容量を設定することができる、容量が不足したらHDDを交換して容量アップができる、HDDが故障した際にHDDだけ交換できるなどの利点があります。また、一体型のNASに比べて故障した際にデータの取り出しがしやすいです。

NASキット		HDD一体型NAS
		
NASキット (写真はQNAP TS-231P)		HDD一体型のNAS
セットアップ	HDDの組込や設定が必要	すぐに使える
初期費用	別売のHDDを用意する 必要がある	HDDが内蔵されている ので本体代金のみ
故障時	HDDを交換できる	HDDの交換不可
データの保全性	NAS本体の故障時も HDDのデータは 保護されている場合が多い	故障時にデータの取り出しが 難しい場合が多い
拡張性	後からHDDの容量を 増やせる	HDDの容量は増やせない

「NASキット」ではHDDをご自身でトレイにセットしてセットアップする必要があります。PC機器の組み立て、と聞くと「難しそう」と考える方が多いかと思いますが、現在発売されているNASキットのセットアップは非常に簡単です。HDDを入れるトレイを引き出してHDDを入れるだけです。

NASキットを選ぶ際はどのくらいの容量を保存したいか、どれだけ強固にデータを保護したいかによってモデルを選択すると良いでしょう。

NASキットに表示されている「1ベイ」「2ベイ」「4ベイ」などの「ベイ」とはHDDのトレイ数を示します。トレイ数が多いほど、たくさんのHDDを入れられるのでストレージ容量を増やすことができますし、RAID設定(データの冗長化レベル)を強化できます。家庭で使用するには「2ベイ」モデルが売れ筋です。SOHOなどのオフィスで使用する場合には拡張しやすい「4ベイ」が選ばれることが多いようです。

最終的にはトレイの中に入れるHDDの容量によってストレージ容量が決まりますので、予算や目的にあわせてNASキットとHDDを用意しましょう。



2.1 NASにHDDを入れて組み立てよう

用意するものはNAS本体、内蔵するHDD、そしてプラスのドライバーだけです。ここではQNAPのNASを例に組み立てます。

手順1 NAS本体、HDD、プラスドライバーを用意する



手順2

トレイにHDDをセットします。フロントにあるベイ(トレイ)の取っ手を引き上げます。するとトレイが前に取り出せるようになりますので、そのまま引き出します。トレイの取り出し方は製品により違いがあるので、事前に説明書などをよく読んでおきましょう。



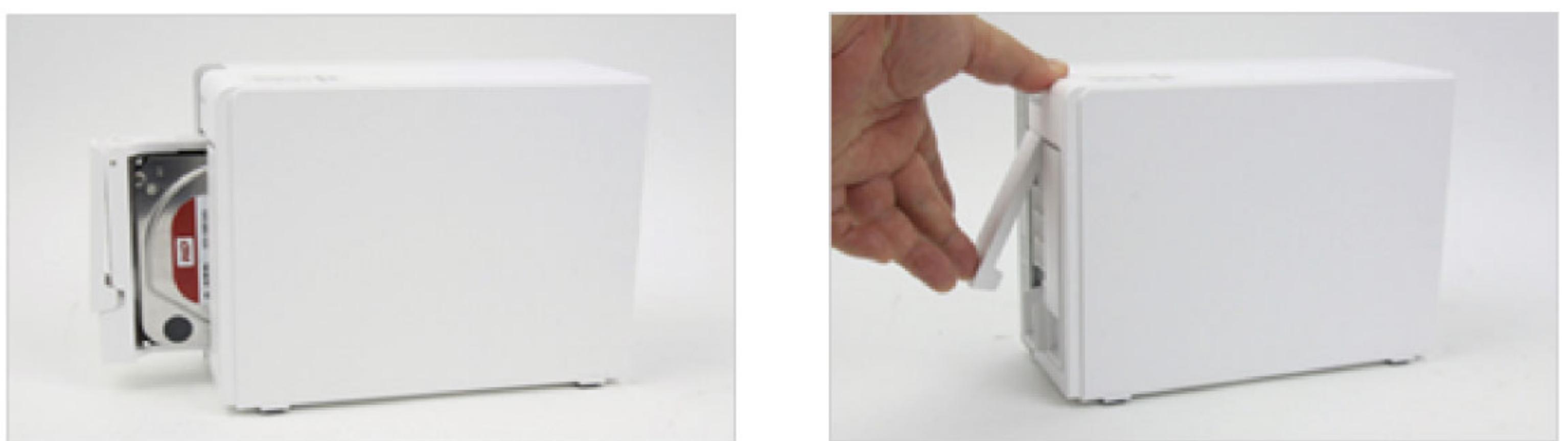
手順3

HDDをトレイにセットします。後部の端子がNASの内部を向くように方向を確認してセットし、添付されているネジでHDDを固定します。



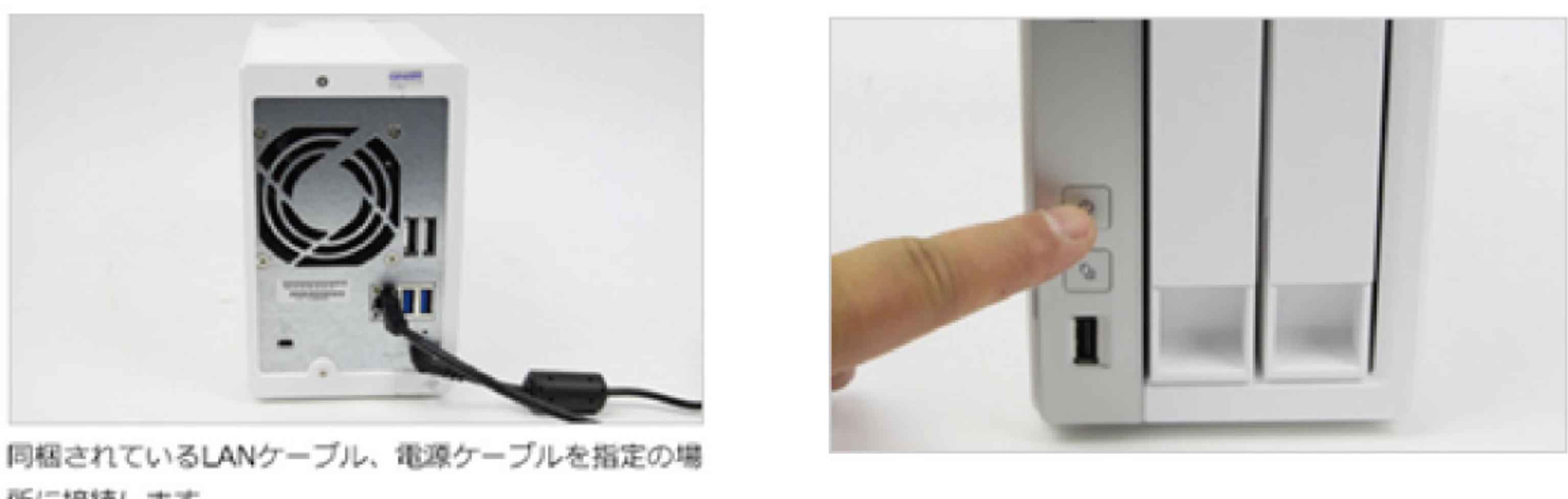
手順4

HDDを搭載したトレイを元の場所に挿入します。このとき、SATA端子同士が向き合っているとスムーズに入ります。少しでも違和感がある場合は、トレイのセット方向を確認してください。トレイを奥まで差し込み、取っ手を戻せばセット完了です。



手順5

HDDをセットしたNASをネットワークにつなぎ、NAS本体の電源を入れます。NASは既存のネットワークに接続して使います。使用中のHUBもしくは、無線LAN環境の場合は直接無線LANルータのHUBに接続してください。また、NASのデータ送受信速度はネットワーク環境に依存します。さらに高速なデータ送受信環境が必要な場合は、ネットワーク全体の規格を見直してください。



同梱されているLANケーブル、電源ケーブルを指定の場所に接続します。

column どんなHDDを選ぶのが良いの？

NASに入れるHDDについては容量や品質についても事前に調べておくとよいでしょう。HDDには目的別にラインナップされているものがあります。中でも、ウエスタンデジタル(WD)社製のNAS用に開発された「WD RED」がオススメです。

2.2 QTSを使ってセットアップしてみよう

QNAPではQTSという直感的なセットアップ画面が用意されています。また、スマホやタブレットから設定するためのアプリも用意されています。

セットアップの際には同梱されている「簡単セットアップガイド」を参照しましょう。スマホやタブレットのセットアップのように、ウィザードを追っていくだけで簡単にセットアップができます。

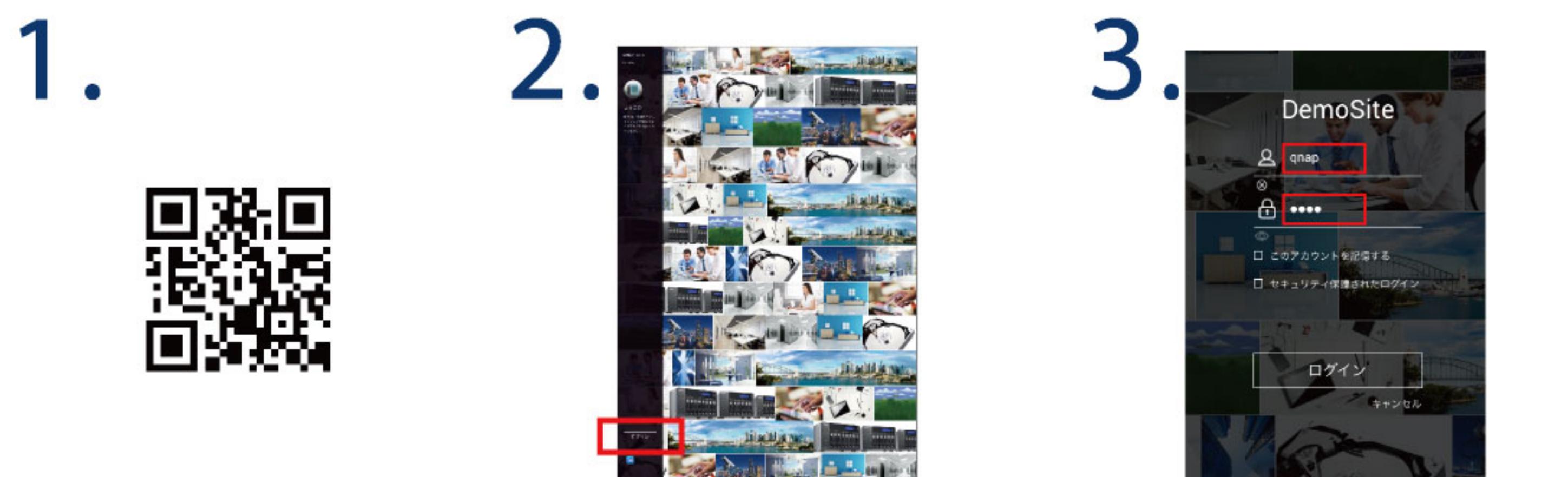
column QNAPのQTSを操作してみよう

簡単と言ってもイメージがわからない…そんな方のためにQNAPはユーティリティ画面「QTS」を体験できるライブ・デモをWebに用意しています。PCはもちろん、スマホでも操作できますので、ぜひ体験してみてください。

直感的に操作できるQNAPの QTSを操作してみよう!

簡単アクセス! QTS利用手順

1.



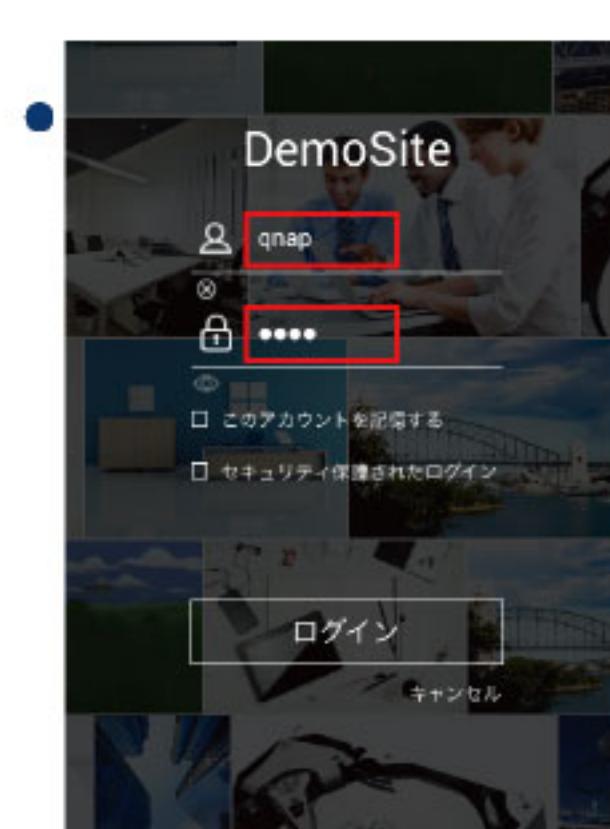
上記のQRコードを読み取り、
QNAPのライブ・デモへアクセス

2.



画面左下の[ログイン]をタッチ

3.



以下の情報を入力してログイン

ユーザー名 : qnap
パスワード : qnap

4.



QTSによこそ!
QNAPのインターフェースの
デモ操作ができます。
※一部操作出来ないメニューがあります。

5.



画面左上のメニュー ボタンをタッチ
直感的に使えるNAS QNAPを
体験してみましょう!

QNAP

3 QNAP NASならどこからでもデータに簡単アクセス

3.1

複数台のパソコンやスマートフォンでデータを同期したい! 「Qsync」でNAS経由で端末を同期する



QNAPのNASをデータ同期の中央センターとして活用してみましょう。「Qsync」を利用すれば、自宅のデスクトップと外出用のノートのデータを同期したり、パソコンとスマートフォンの間でデータを同期できます。

どこでも同じデータが使える「Qsync」

外出先で「自宅のPCに保存してあるデータを見たいな」等という経験は誰にでも一度くらいはあることでしょう。

もちろん、QNAPのNASがあれば、リモートアクセスでNAS上のファイルをいつでも参照できます。しかし、その肝心のファイルが、NAS上になく、自宅のパソコンに保存されている可能性もあります。いつでも最新データをNAS上に保管するのに便利なのがQNAPの「Qsync」機能です。

syncという言葉からもわかるとおり、データを同期させるための機能です。QNAPのNASでQsyncを有効化し、同期したいパソコン(Windows/Mac)やスマートフォンにアプリをインストールすると、会社のパソコン、モバイルパソコン、自宅のパソコン、スマートフォン、タブレットなど、それぞれの端末から、どこでも同じデータが使えるようになります。

スマホアプリ



Qsync

デバイス上のデータをNAS上で同期します。バックアップツールとしても使えます。

スマホでNASのデータを見る「Qfile」

同期されたファイルをスマートフォンでも使いたい場合は、Qfileアプリを利用します。

スマホアプリ



Qfile

スマホからQNAPに保管したデータを見たり、同期できます。

QfileアプリからNASに接続すると、「Qsync」フォルダーが表示されるので、そこからパソコンで同期されたファイルにアクセスできます。

なお、スマートフォンはパソコンとは若干しきみが異なるため、データの同期は実行されません。そもそも、パソコンで扱うような大容量のデータをスマートフォンに同期してしまうと、膨大な通信量が必要になるうえ、容量もすぐになくなってしまうため、効率的ではありません。

このため、ネットワークに接続できない状態では、Qsyncで同期したファイルにアクセスすることはできません(オンライン時にダウンロードしておけば可能)。

ただし、スマートフォンからNASへのファイルの自動アップロードはQfileによって可能です。設定画面で機能を有効にすれば、写真や動画を自動的にNAS上にアップロードしたり、特定のフォルダーのデータを自動的にNASにアップロードすることができます。用途に応じて設定を使い分けるといいでしょう。

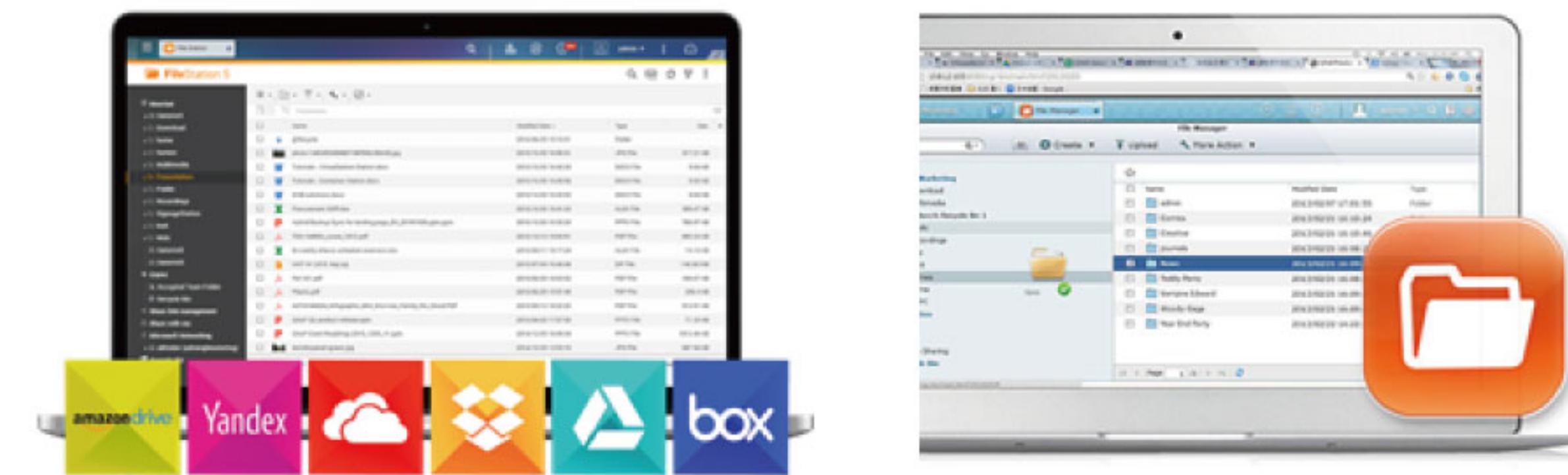


Qfileアプリを利用するとスマートフォンから同期したファイルにアクセス可能。スマートフォンの写真やフォルダーを自動アップロードすることもできる

3.2

重要な情報だからこそ自己の管理下で受け渡したい! QNAPの共有リンクを使ってファイルを送信する

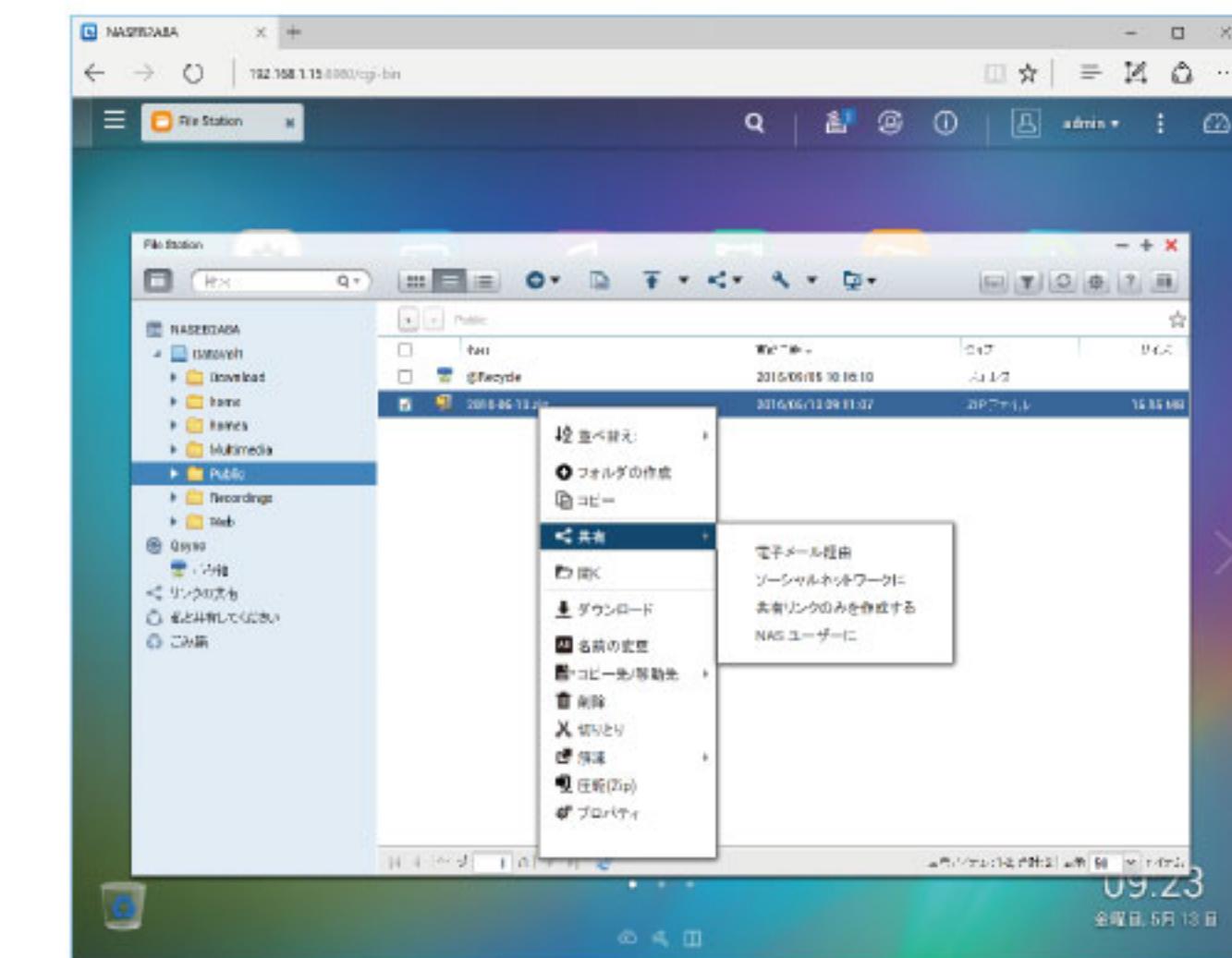
QNAPのNASに保存したデータは、インターネット経由で、簡単にほかの人に受け渡すことができます。大げさでは送れないファイル、重要な情報なので、なるべく外部を経由せずに渡したいファイルを送信してみましょう。



常に原本を共有できるNASのファイル共有

そこで活用したいのが、QNAPのNASを使って外部とのファイル共有できます。

使い方は、とても簡単です。QNAPの管理画面から「File Station」というアプリを利用して、共有フォルダの中から共有したいファイルを選択。右クリックして「共有」から送信方法（「電子メール経由」や「共有リンクのみを作成する」）を選びます。表示されたダイアログでタブを選択すると、送信方法を選びなおせるので、どの方法を選んでもかまいません。



File StationからNAS上のファイルを直接送信できる

3.3

外出先からNASのデータにアクセスしたい! myQNAPcloudを使ったスマートフォンからのアクセス



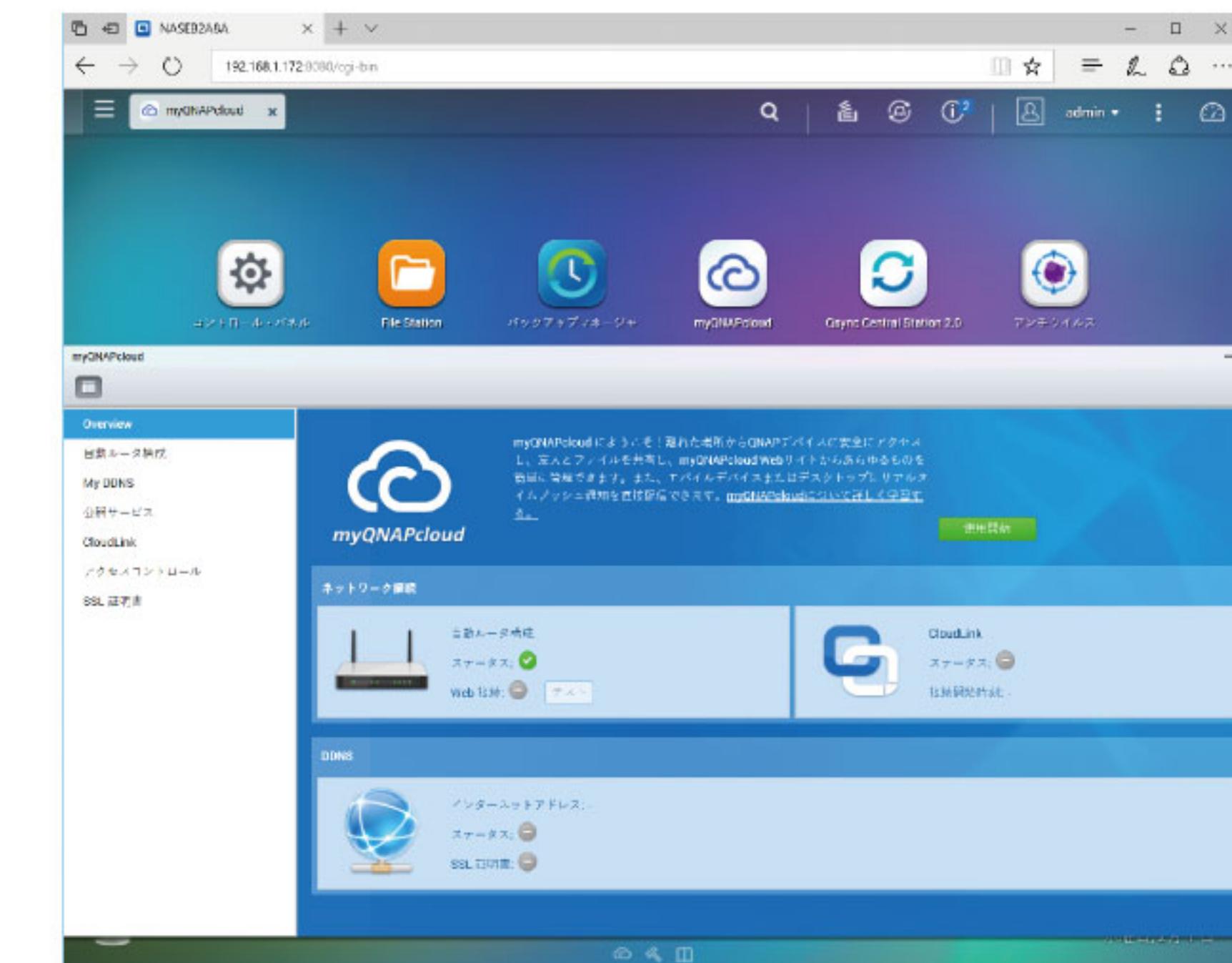
NASは、社内や家庭内で使うだけの機器ではありません。スマートフォンなどを利用して外出先からもアクセスできるようすれば、普段使っているデータをさまざまな場所から参照できるようになります。

「myQNAPcloud」で設定する

QNAPに外出先からリモートアクセスできるようにするには、「myQNAPcloud」を利用します。

設定画面にアクセス後、ホーム画面にある「myQNAPcloud」を起動し、初期設定を実行しましょう。この操作によって、QNAPが提供しているクラウドサービスにNASを登録したり、外部からNASにアクセスするためのルーター構成などが自動的に設定されます。

まずは、myQNAPcloudアカウントを作成します。はじめての場合は、「myQNAPcloudアカウントを作成する」をクリックして、表示されたページにメールアドレスなどを登録してアカウントを作成しておきます。表示されるウィザードに従って設定するだけでセットアップができます。

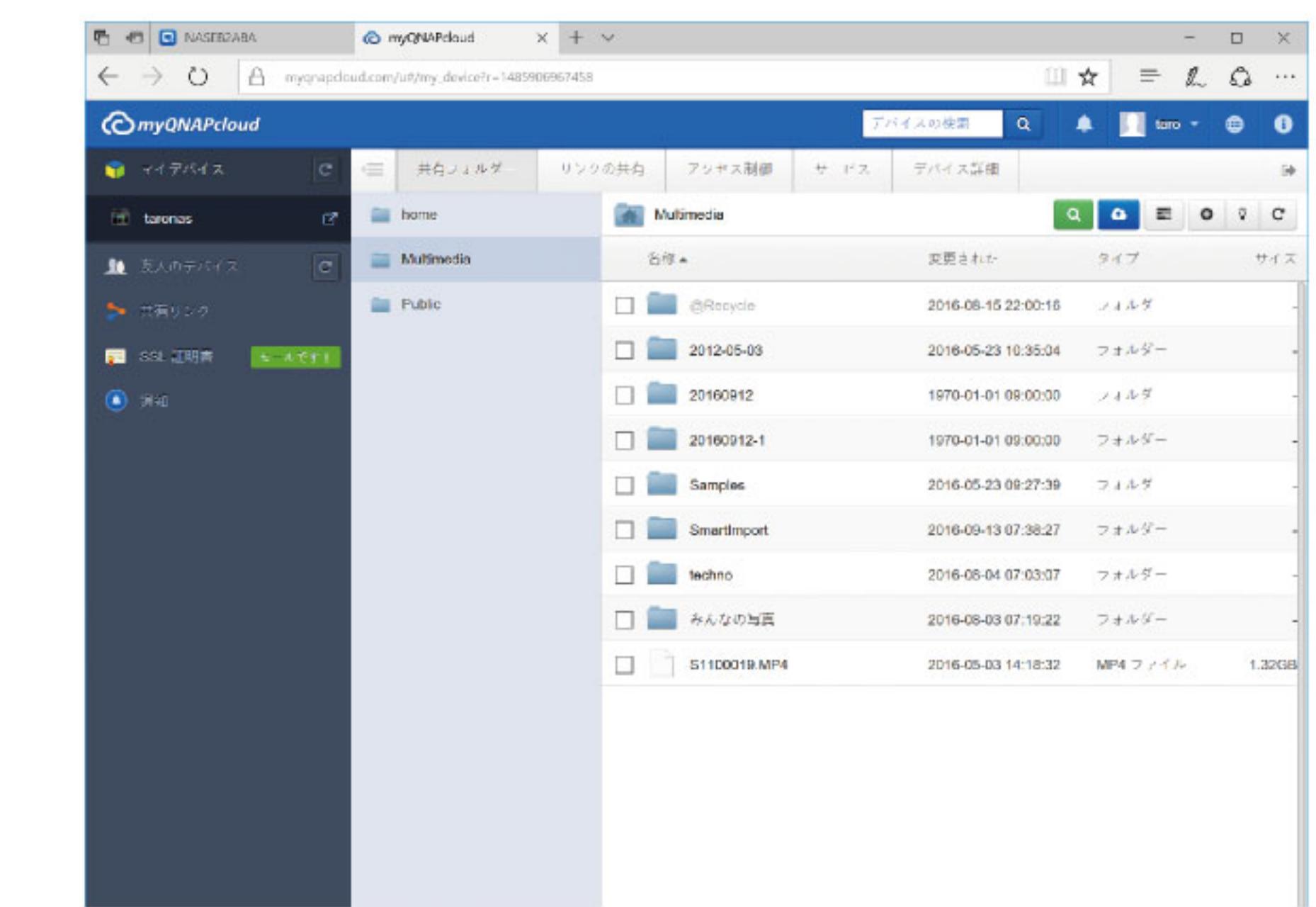


myQNAPcloudを起動して「使用開始」をクリック

ブラウザで外出先からアクセスする

外出先のPCからインターネットに接続し、ブラウザを起動して「myQNAPcloud」のサイト(<http://myqnapcloud.com>)にアクセスします。トップページや右上に「サインイン」ボタンが表示されるので、これをクリックして登録したmyQNAPcloudのアカウント(QIDのメールアドレスとパスワード)を入力してサインインします。

すると、NASへのアクセス画面が表示されるので、今度はNASに登録されているアカウントでログインします。これでNAS上のファイルを参照できるようになります。



PCからはmyQNAPcloud経由でNASにアクセスするのが簡単

スマホで外出先からアクセスする

スマートフォンからのアクセスしてみましょう。スマートフォンからアクセスする場合は、QNAPが無料で提供している「Qfile」アプリを利用します。

4 QNAP NASで大切な写真をしっかり保存&整理しよう

スマホアプリ



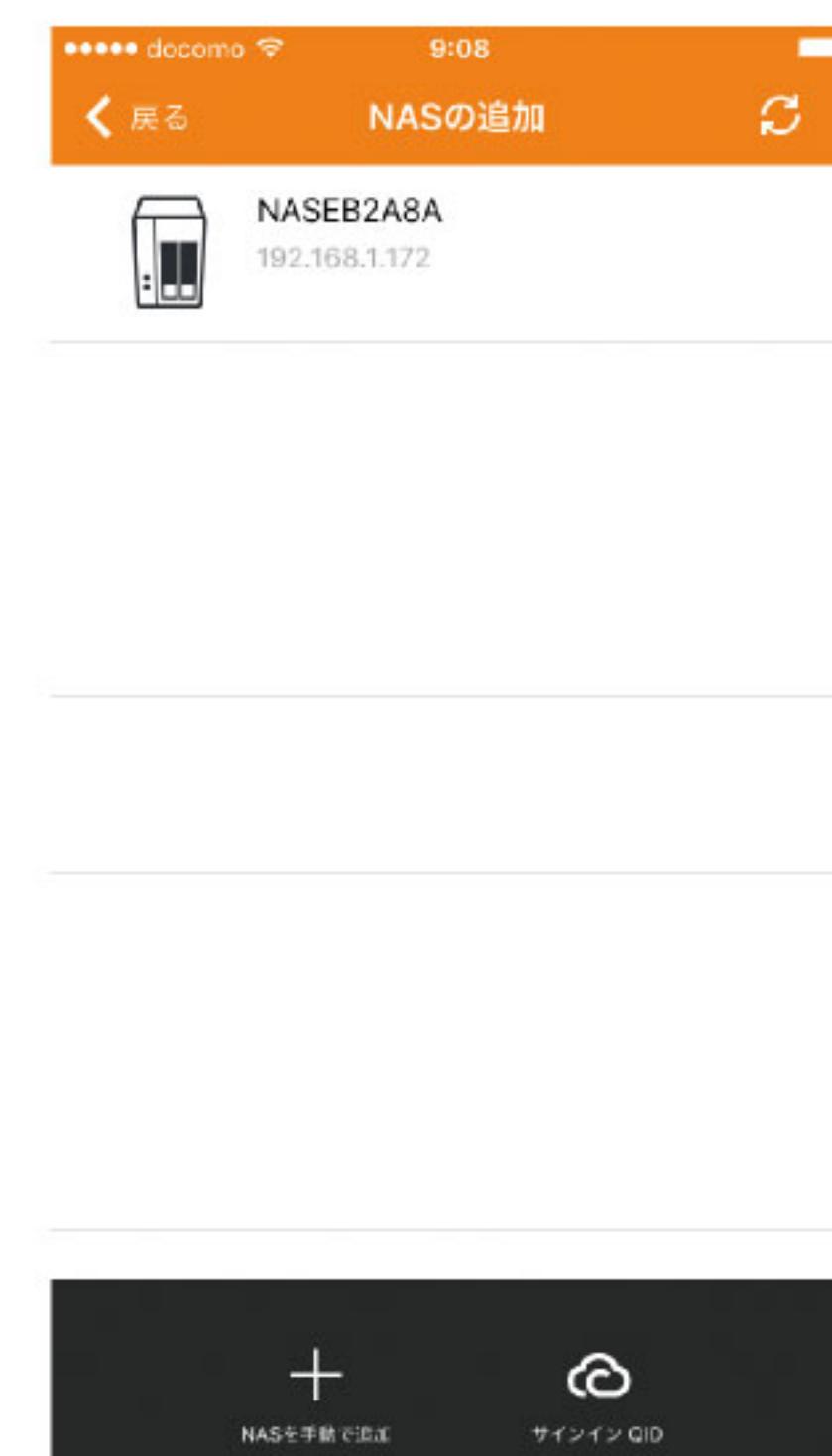
Qfile

スマホからQNAPに保管したデータを見たり、同期できます。

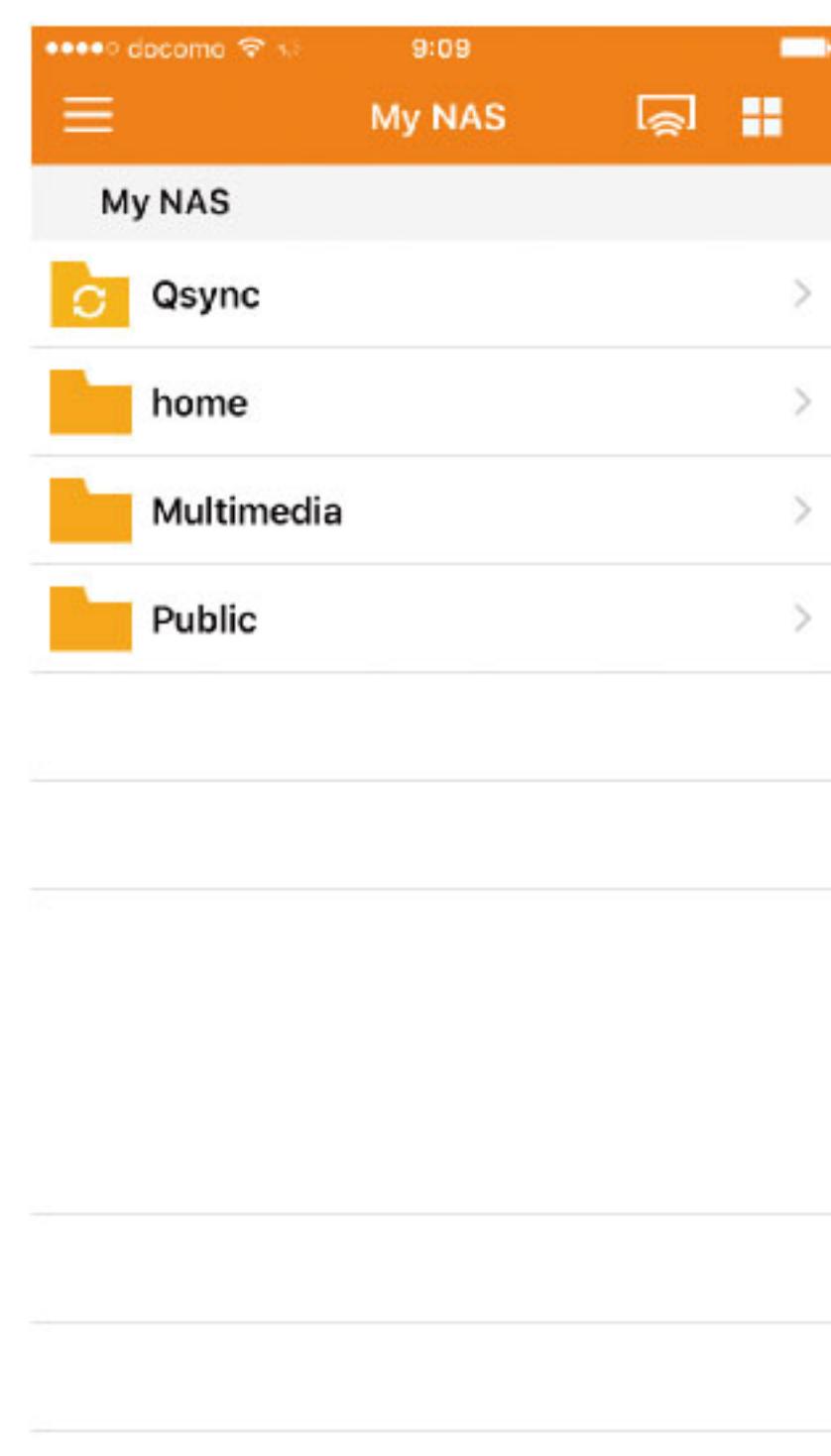
続いてアプリの初期設定をしますが、初回は社内や家庭内など、NASと同じネットワークに接続している環境で設定することをオススメします。NASを自動的に検出できるので、設定がとても簡単です。



社内や自宅内など、NASと同じネットワークで起動すると、自動的にNASが検出される



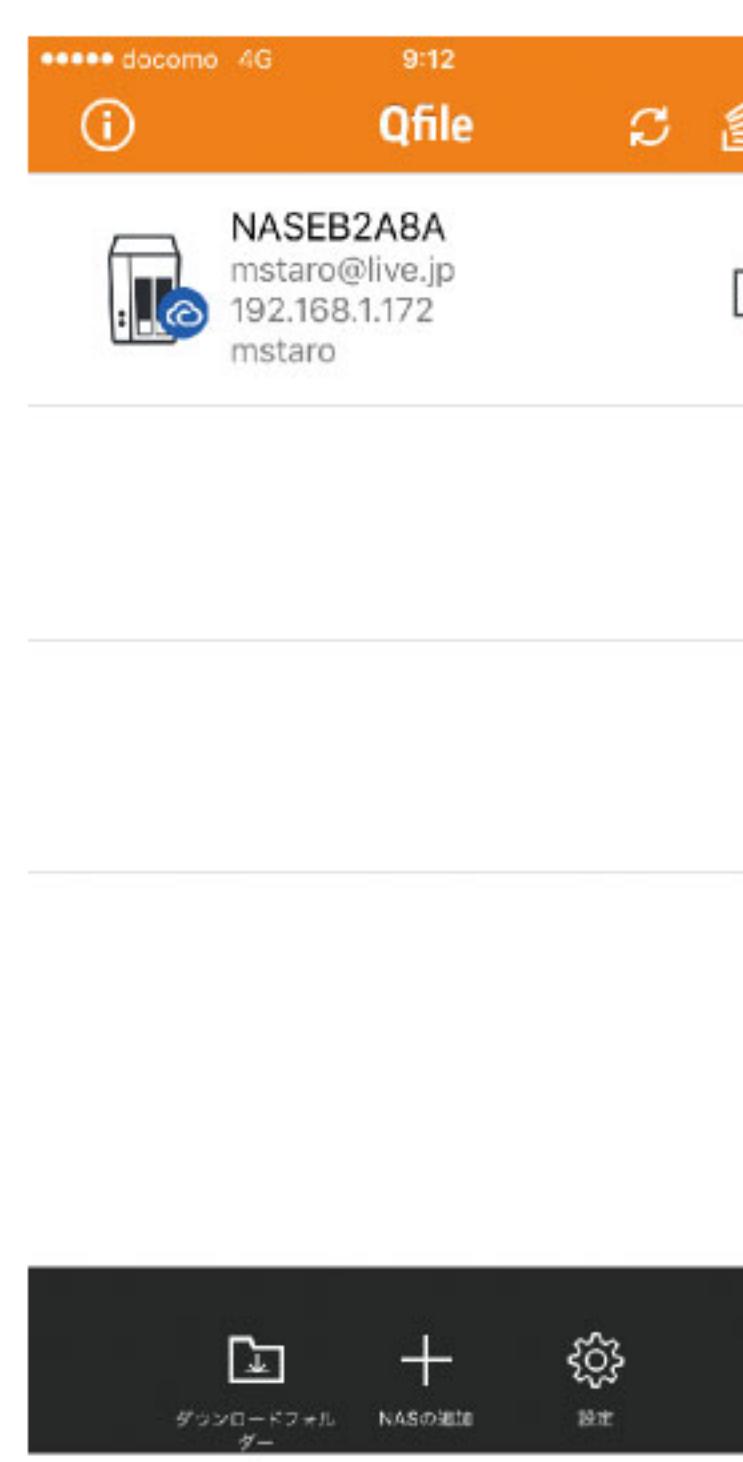
ユーザーIDとパスワードを設定すれば、NASにアクセス可能



NASの共有フォルダーを参照できる

外出先からアクセスする場合は、この設定に加えて、myQNAPcloudのアカウントを設定する必要があります。アプリ左上のボタンからメニューを表示して[設定]を選択すると、「QIDの管理」という項目が表示されます。ここに、取得済みのmyQNAPcloudアカウントを登録します。

この設定を一度しておけば、アプリ起動時の接続先にもアイコンが表示されるようになり、NASにmyQNAPcloud経由でアクセスできるようになります。



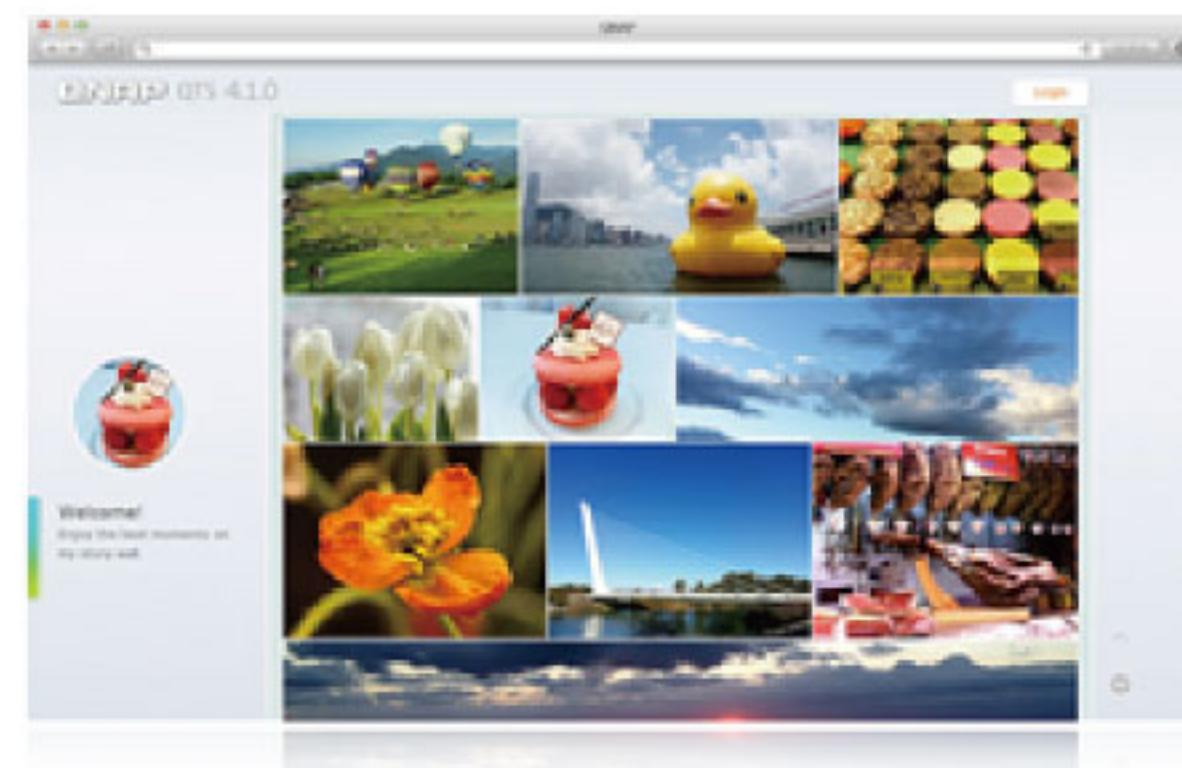
QIDを登録する



リモートアクセスが可能になる

4.1

自分だけの写真も共有したい写真もまとめてNASでしっかり管理



デジタルカメラで撮影した写真やスマートフォンの写真が、あふれ返っていませんか？ 膨大な容量の写真も、NASを使えば楽々保管できます。アプリを使って整理したり、外部の人と共有することも簡単です。

どこに保存するのがベストか？

今までに撮りためたデジタルカメラやスマートフォンの写真をどこに保存していますか？

デジタルカメラ本体？ パソコン？ それともクラウドストレージ？ 手間を避けるために本体に取りっぱなしのまま保管したり、やってもパソコンに取り込んでいる、という人が多いかと思います。

もちろん、最近ではクラウドストレージサービスも一般的になってきたので、そこに保存している人もいることでしょう。無料で使えるので容量には制限のある場合がありますが、友人や親類などの人との写真を共有することも簡単なので、なにかと重宝します。

しかし、その一方で、プライベートな写真が流出したり、不正に入手したIDやパスワードでインターネット上に保管された写真を盗み見るといった犯罪がニュースになることも少なくありません。

写真というもっともプライバシーの優先度の高いファイルを、本当に第三者の手に預けてもいいのか？ と不安に感じる人も少なくないはずです。

	メリット	デメリット
本体メモリ	その場ですぐに表示できる。 プライバシーを守りやすい。	容量が限られる。無くしたり壊れる心配がある。
パソコン	より多くの写真を保管できる。	壊れる可能性がある。外部とのやり取りが難しい。
クラウドストレージ	たくさんのデータを保存できる。 ほかの人と共有しやすい。	インターネット接続が必要。 プライバシーが心配。
NAS	大量に保存できる。高速にアクセス可能。 外部共有も可能。 プライバシーを守りやすい。	自分でNASを購入する必要がある。

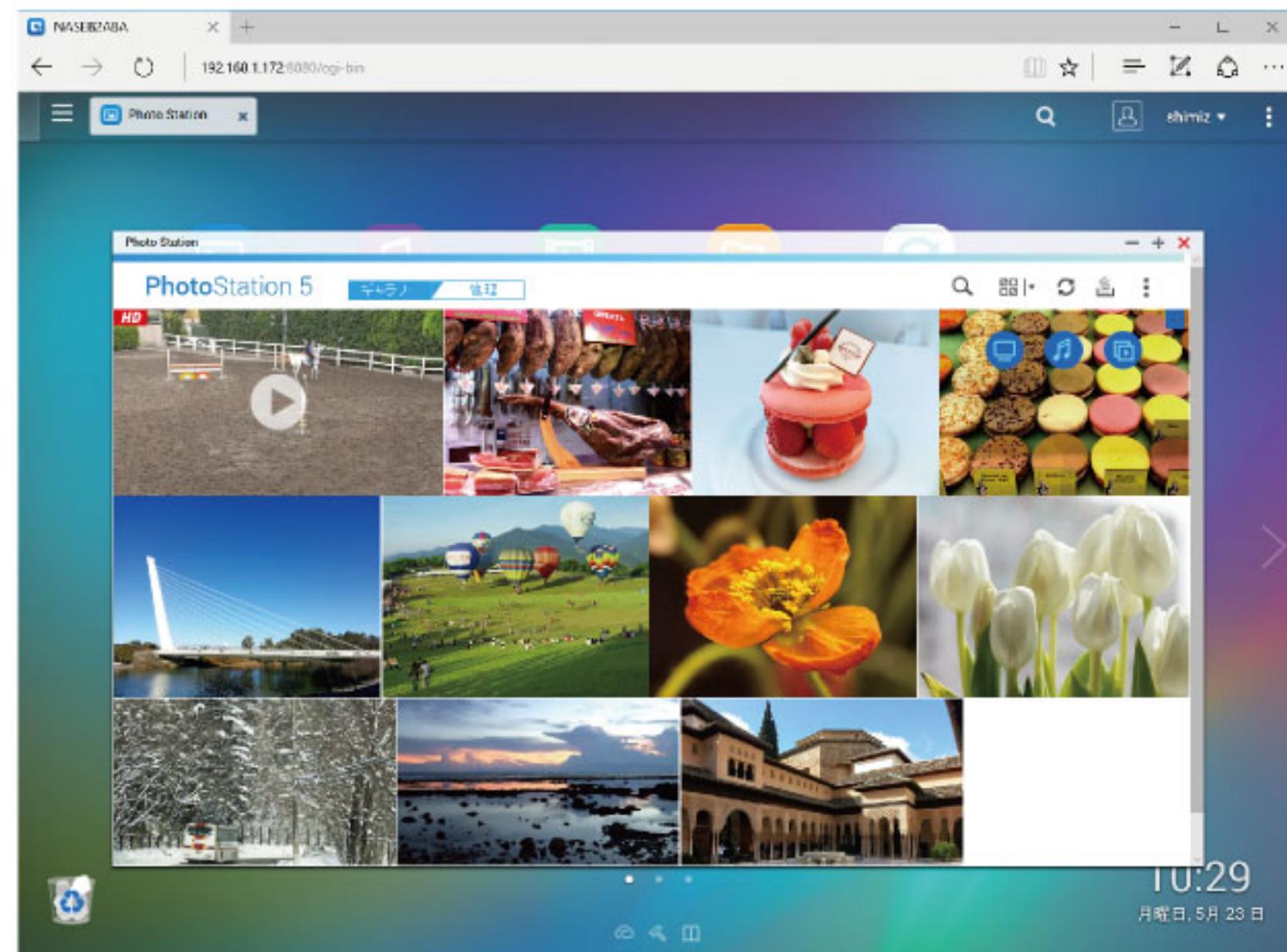
そこでおすすめしたいのが、NASによる写真の管理です。もちろん、共有フォルダに単純に写真を保存することもできますが、おすすめしたいのは、QNAPのNASに搭載されている「PhotoStation」のような写真管理アプリを組み合わせて利用することです。

PhotoStationで写真を管理する

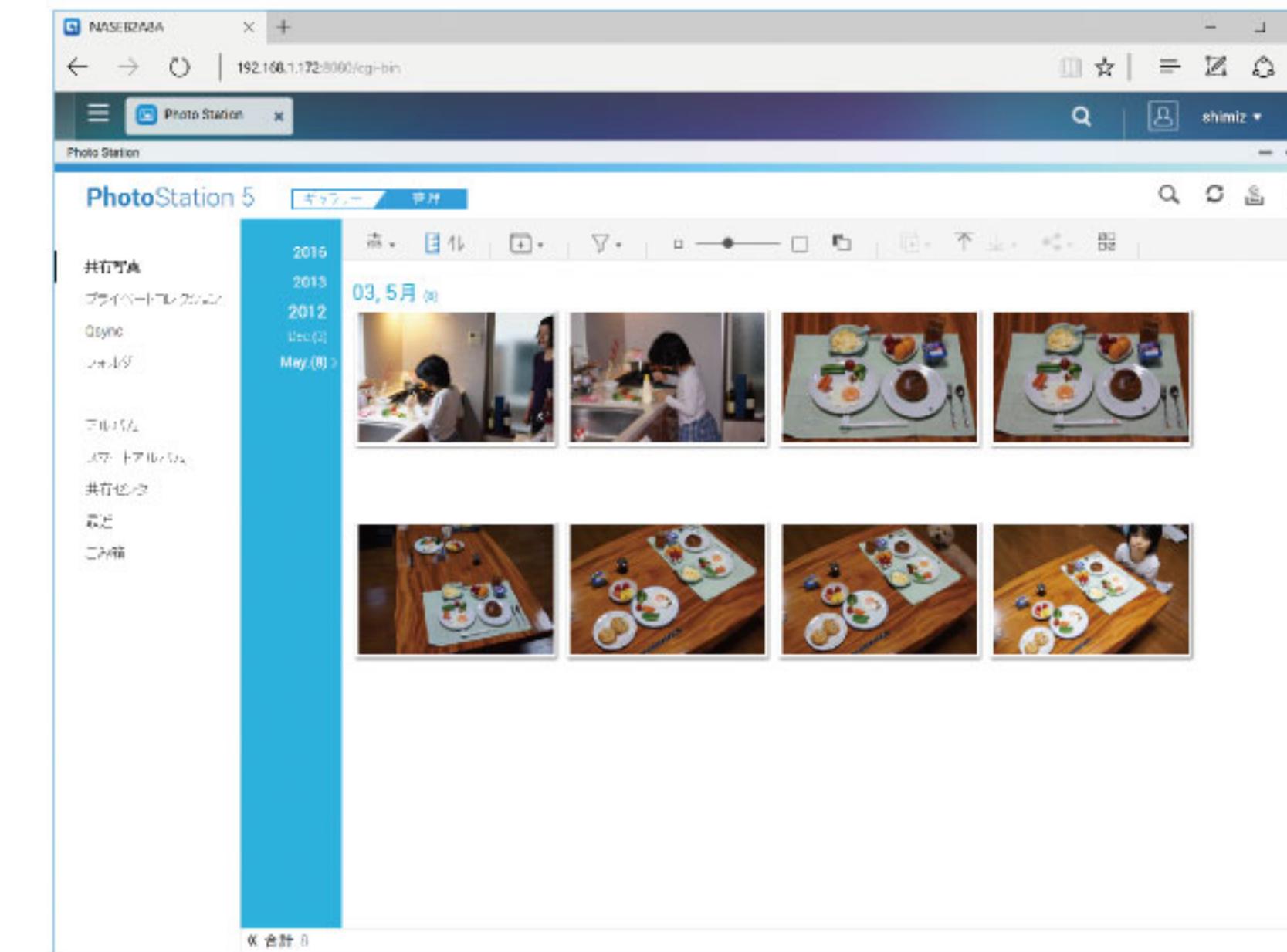
それでは、PhotoStationを使って写真を管理してみましょう。

PhotoStationは、2つのモードで構成されています。1つは写真を見るための「ギャラリー」モード、もう1つは写真を保存したり管理したりするための「管理」モードです。

起動するとギャラリーモードで開始されるので、画面上の「管理」をクリックして管理モードに変更します。



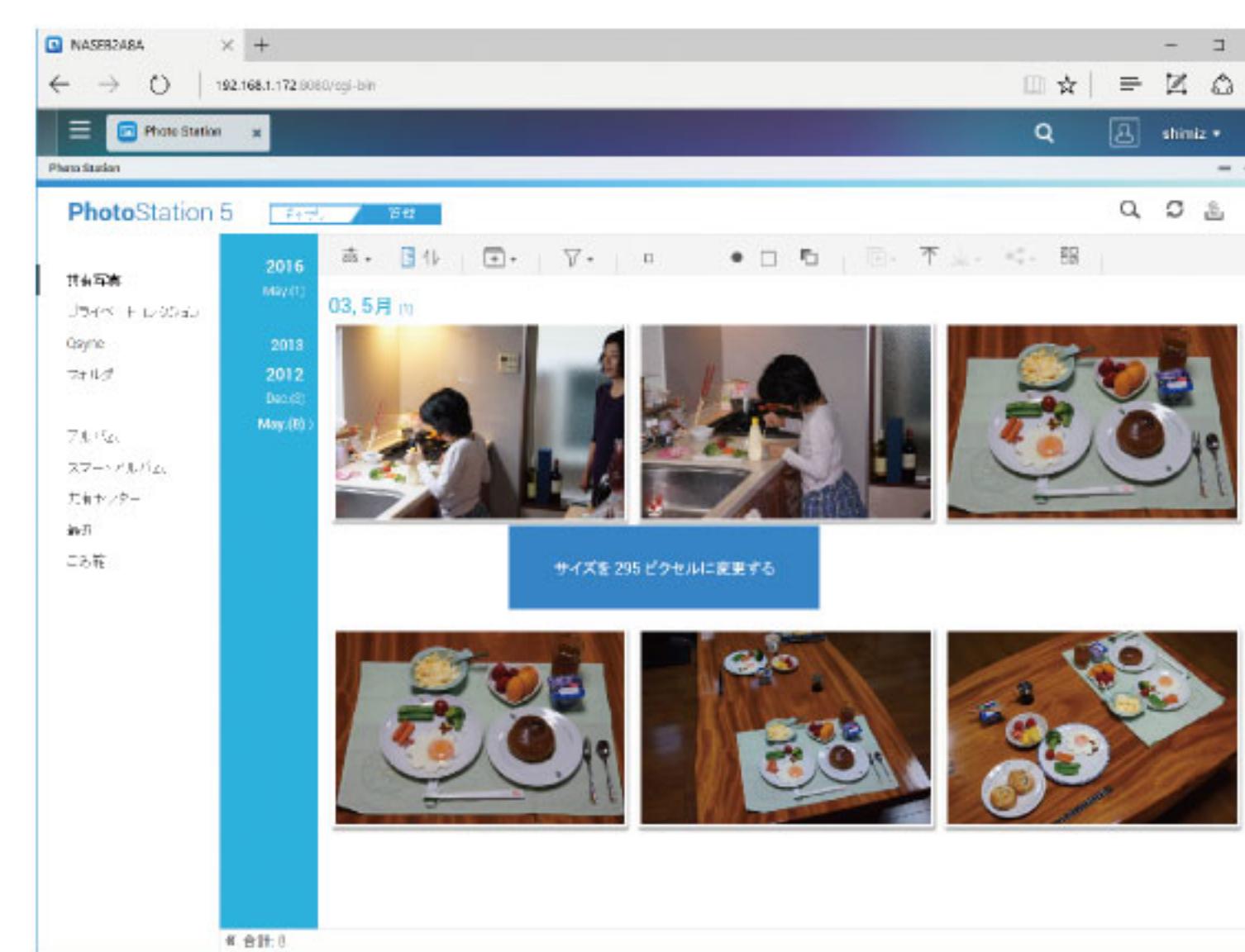
ギャラリーモードで起動する



写真の管理は管理者モードで実行する

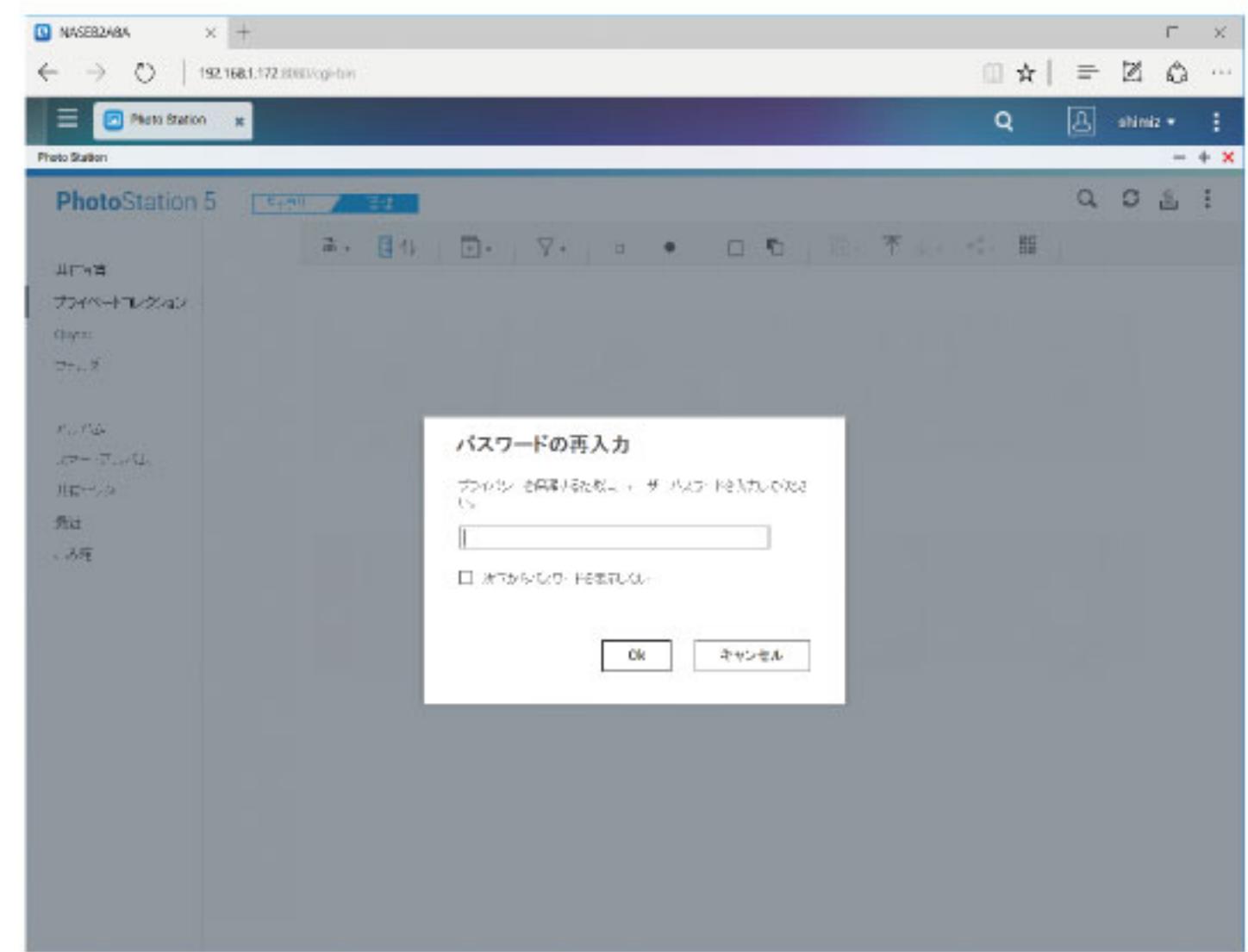
PhotoStationでは、標準で「Multimedia」共有フォルダとログインしたユーザーのホームフォルダの写真を管理することが可能となっています。

「Multimedia」フォルダに保存された写真是「共有写真」から参照できます。自動的に日付で分類されるので見たい写真の日付をクリックしてみましょう。ツールバーを使って、表示される写真のサムネイルの大きさを変更することなどもできます。

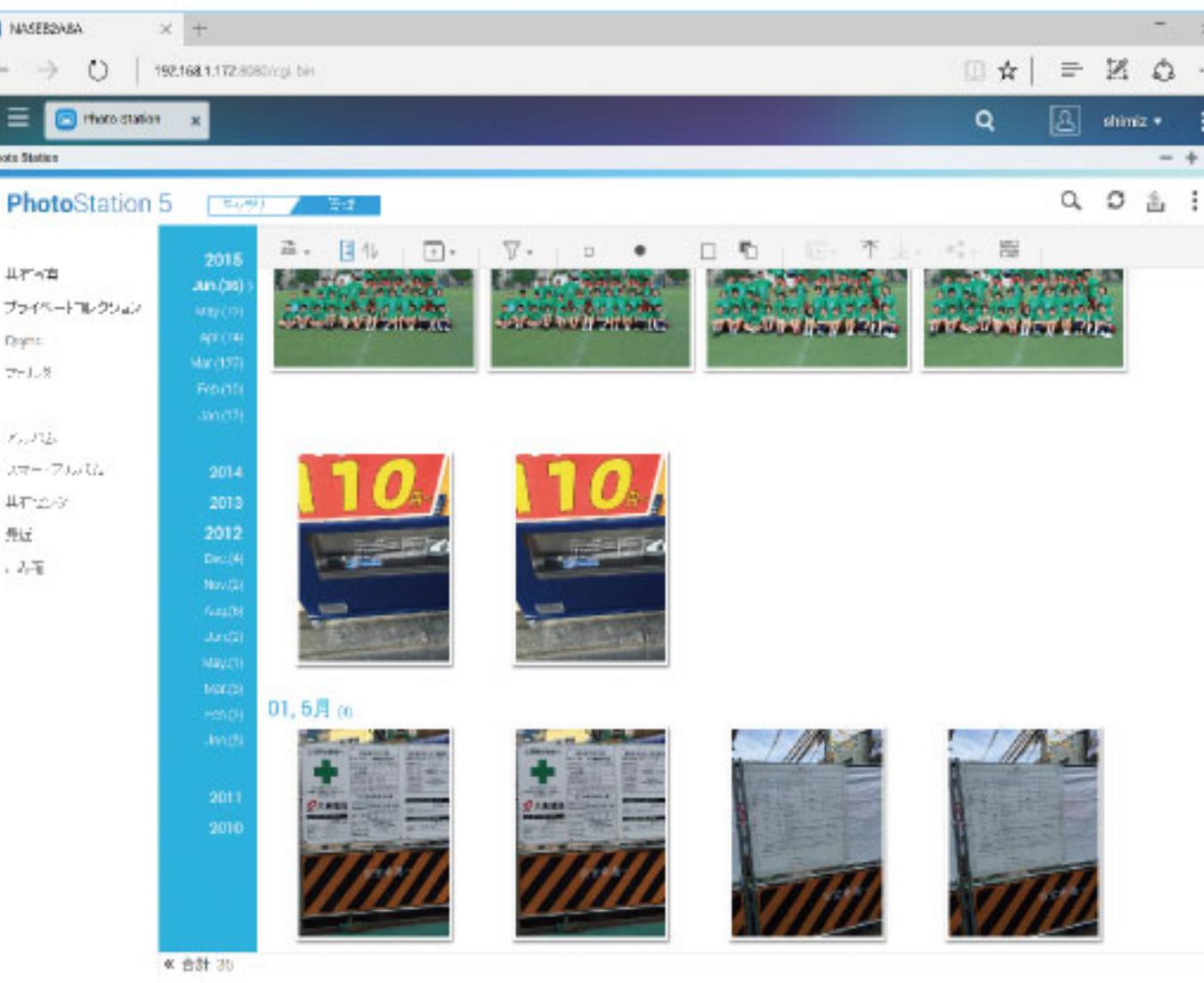


「共有写真」で「Multimedia」フォルダの写真を表示。サイズ変更なども簡単

続いて、ホームフォルダに保存されたプライベートな写真を表示してみましょう。「プライベートコレクション」をクリックすると、パスワードの入力画面が表示されます。ここに、QNAPのアカウントのパスワードを入力すると、同様に写真が表示されます。



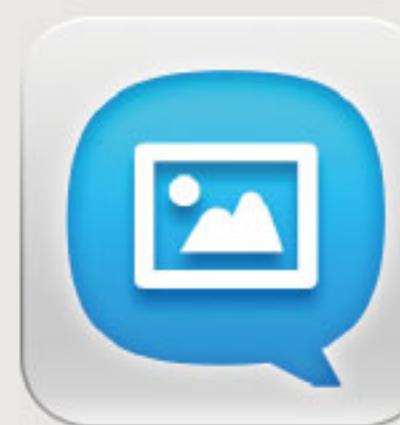
「プライベートコレクション」へのアクセスにはパスワードの入力が必要



ホームフォルダの写真が表示された

以上がPhotoStationの基本的な使い方となります。保存するときは、パソコンから写真をコピーし、PhotoStationを使って見るという単純な操作になりますが、保存先のフォルダとPhotoStationで表示されるアルバムの関係を理解し、プライバシーを守りながら写真を共有するといいでしょう。

スマホアプリ

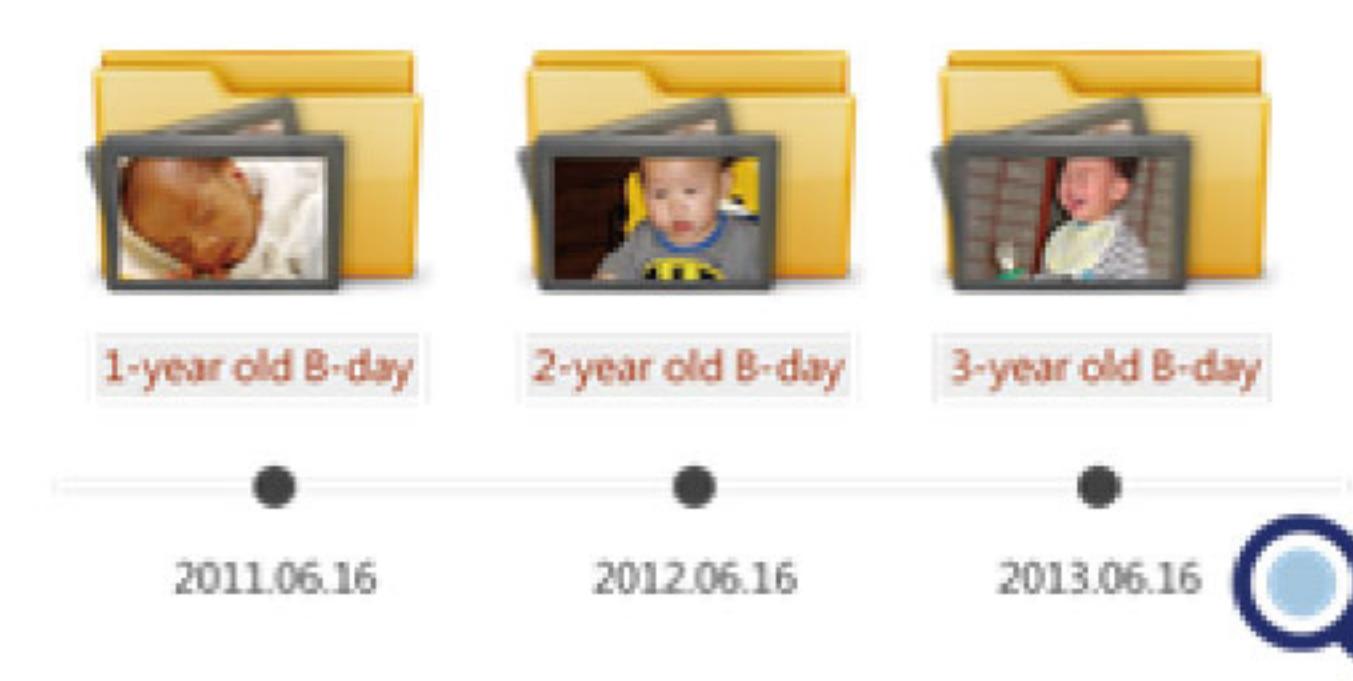


Qphoto

外出先からでも写真を直接QNAPからスマホやタブレットなどに保存したり、デバイスの写真をQNAPへアップロードできます。

4.2

あの写真どこだっけ？ そんなときの手がかりに QNAPの「顔認識」を活用しよう



たくさん写真を撮りためた結果、見たい写真がなかなか見つからなくなったり。なんて経験が誰にでもあることでしょう。そんなときの手がかりの1つとしてオススメしたいのが「顔認識」機能です。QNAPのNASなら、簡単な設定で自動的に写真の「顔」にタグを設定できます。

Photo Stationの機能を拡張

写真を保管する方法としてQNAPのNASに搭載されている「Photo Station」をご紹介しましたが、このPhoto Stationには、そんな撮りためた写真の整理に役立つ拡張機能が用意されています。

AppCenterからダウンロードできる「Photo Station 拡張」がその機能です。拡張という名のとおり、Photo Stationに2つの機能を追加できるアプリとなっており、その1つとなるPDFアルバムインポート機能もPDFの資料を整理するときなどに便利ですが、今回注目したいのはもう1つの「顔検出機能」のほうとなります。

パソコン向けの写真管理ソフトを使ったことある人は使った経験があるかもしれません、写真にから人物の顔の部分を自動的に検出し、その部分に「タグ」を付けることができます。

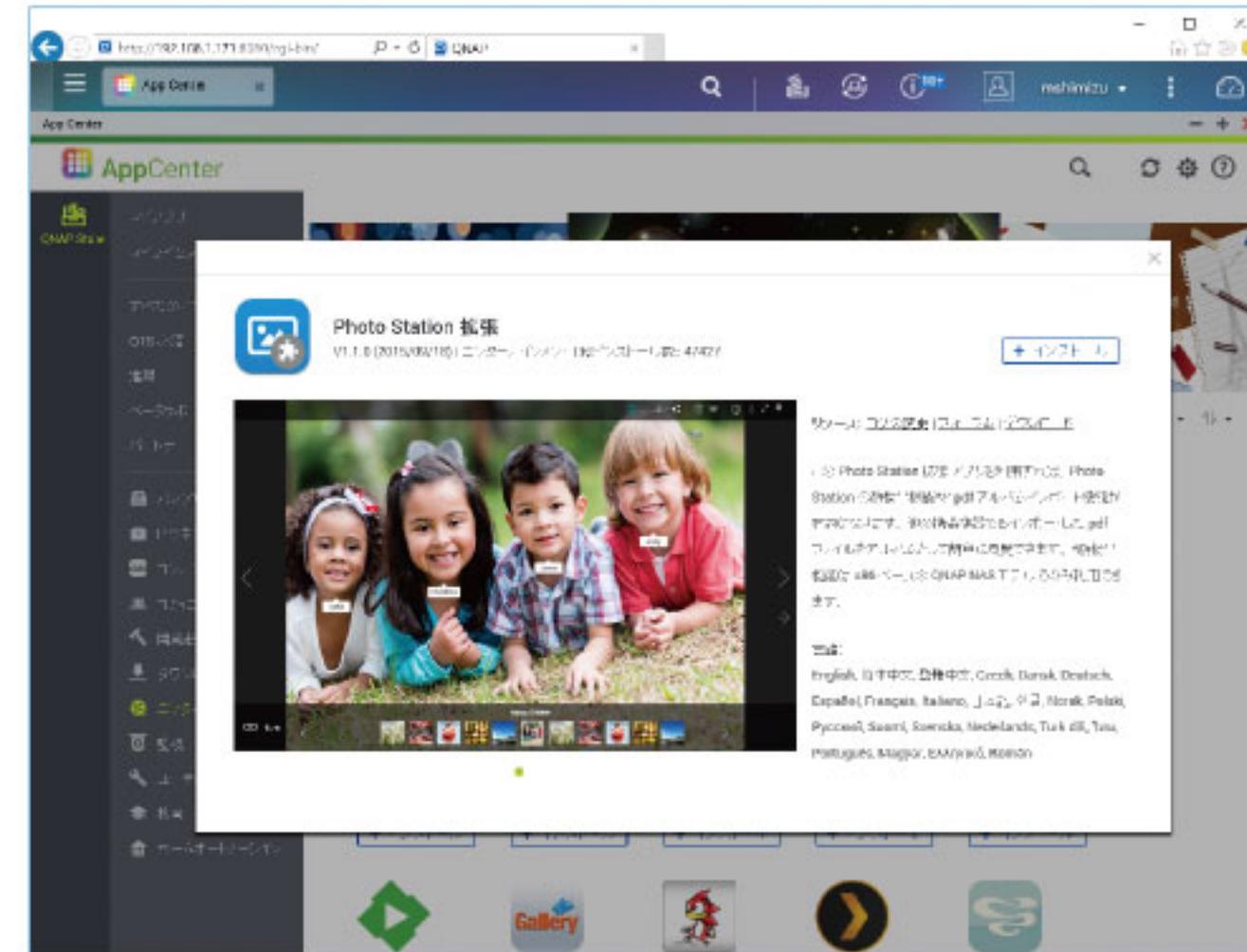
誰が写っている写真なのかがあらかじめ判断できれば、たくさんの写真の中から見たい写真を探し出すときの1つの手がかりになるはずです。

顔認識で人物名をタグとして設定する

では、実際に設定してみましょう。

まずは、「Photo Station 拡張」をインストールします。

インストールが完了したら、Photo Stationから顔認識させたい写真が保存されているフォルダーを設定します。管理ビューの「設定」に追加された「顔認識」タブでフォルダーを指定します。「Multimedia」など写真が保存されているフォルダーを選択しましょう。

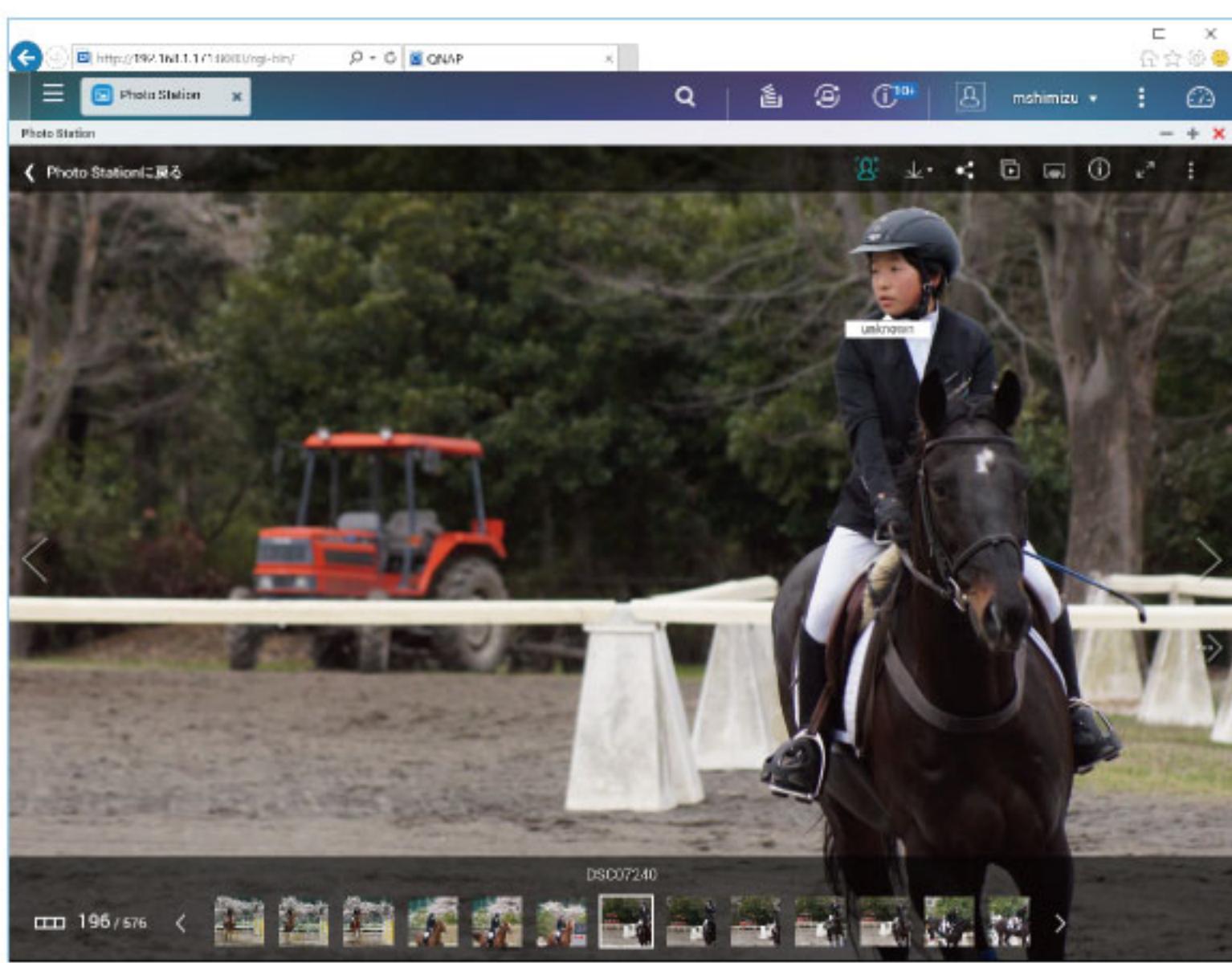


App Centerから「Photo Station 拡張」をインストール

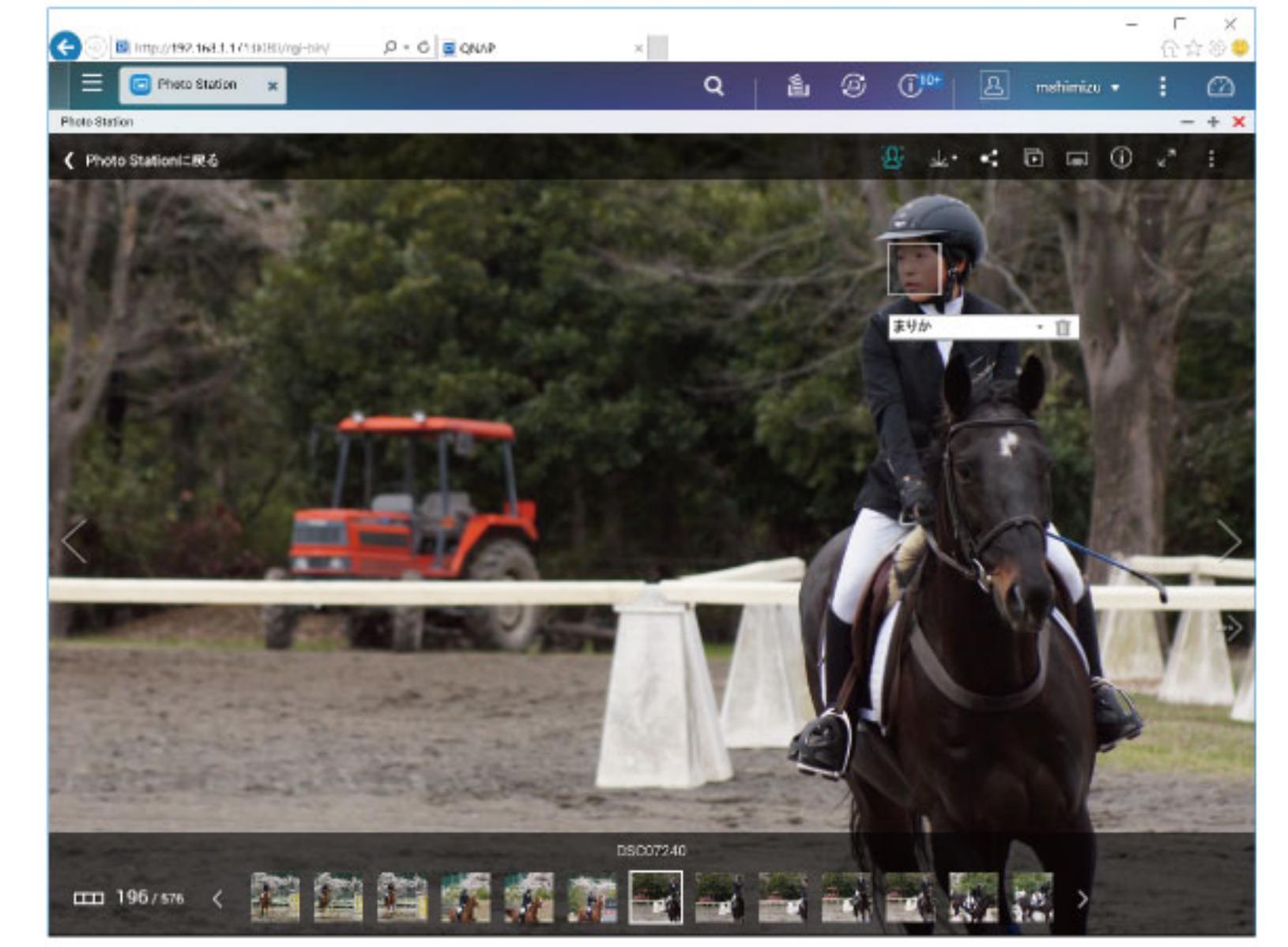
設定が完了したら、人物のタグを設定したい写真を表示し、ツールバーに表示されている「顔認識」アイコンをクリックします。すると、写真に表示されている人物の顔の部分が自動的に認識され、吹き出しが表示されます。

標準では人物のタグが誰も登録されていないので「Unknown」と表示されます。この部分をクリックして名前を設定しましょう。

次回以降は、同じ人であれば、リストから選択できるようになるので、簡単に人物を設定できるようになります。



顔認識を有効にすると顔の部分に吹き出しが表示される。未設定時は「Unknown」と表示される

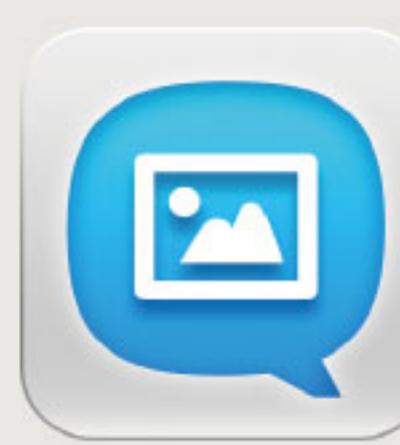


名前を設定すると次回以降はリストから選択可能になる

なお、写真によってはうまく人物の顔の部分を自動認識できない場合もあります。そんなときは、写真の顔の部分をドラッグで手動選択してタグを設定することもできます。

たくさんの写真がある場合、手間がかかるかもしれません、後々、写真を探すことを考えると、このタイミングでタグを設定しておくことをおすすめします。

スマホアプリ



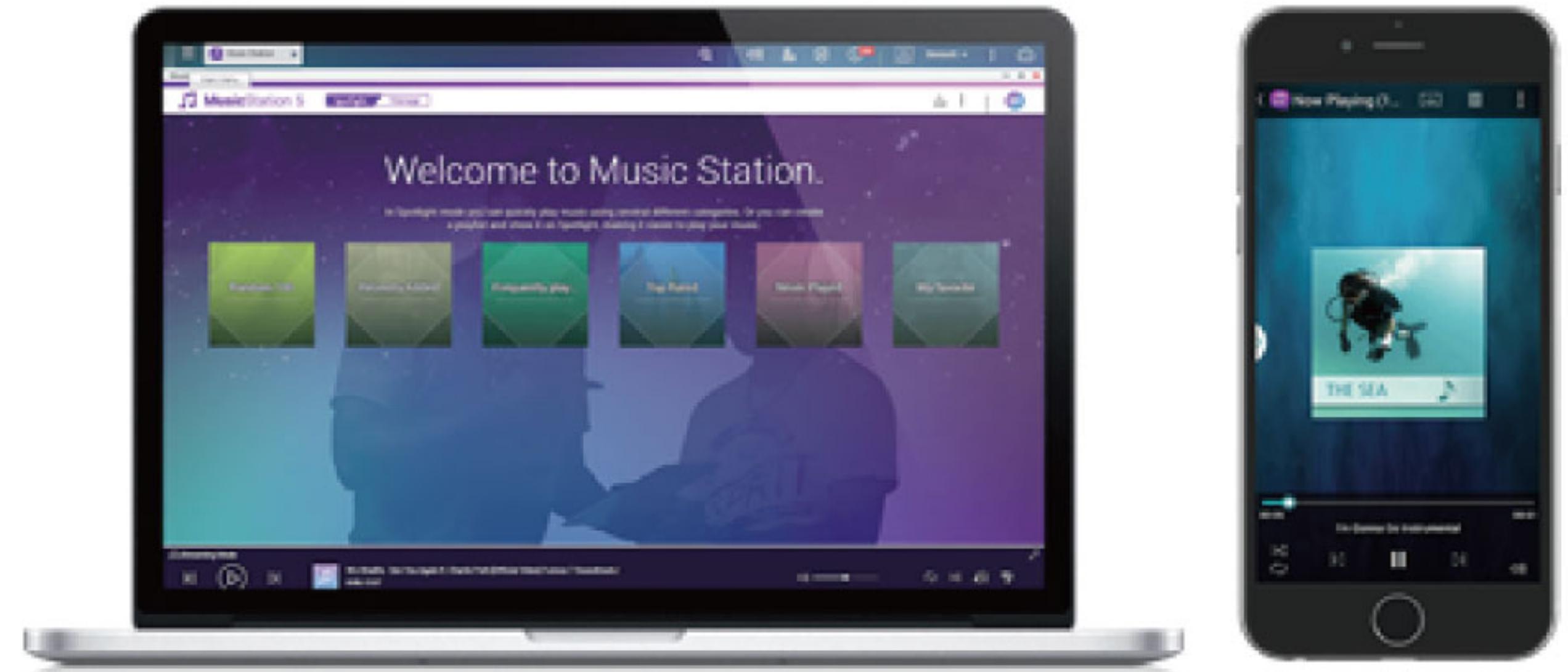
Qphoto

外出先からでも写真を直接QNAPからスマホやタブレットなどに保存したり、デバイスの写真をQNAPへアップロードできます。

5 QNAP NASで音楽を楽しもう

5.1

PCでもスマホでもオーディオ機器でも楽しめる 「Jukebox」としてNASを活用しよう！



もはやコレクションと呼べるほど、大量の音楽をPCに保存している人も少なくないことでしょう。そんな音楽データをより効率的に、安全に管理したいなら、PCではなくNASを活用すべきです。データを安全に保管できるのはもちろんのこと、PCだけでなく、スマホやテレビ、オーディオ機器など、さまざまな機器で保存した音楽を楽しめます。

NASで音楽データを管理するメリット

思い出の曲から最新のヒット曲まで、これまでに購入した音楽CDをPCに取り込んで管理している人も多いのではないでしょうか。

最近では、月々定額で聞き放題となる音楽配信サービスも提供されていますが、数百円とは言え毎月費用を支払うのはもったいないうえ、そんなに大量の音楽ではなく、これまでにコレクションしてきた自分の好きな音楽だけ楽しめればいいという人も多いはずです。

もちろん、今までどおり、PCで音楽データを管理し続けるも悪くはありませんが、PCのハードディスクは経年劣化による故障が懸念されるうえ、最新のPCはストレージのSSD化によりあまり容量に余裕がない状況です。

そこで活用したいのが、NASによる音楽データの管理です。RAIDの利用によってデータの安全性が確保できるうえ、テラバイトクラスの容量を持つNASなら、これまでPCに取りためた音楽データを余裕で保管することができます。

しかも、保管した音楽データをさまざまな方法で再生できるというメリットもあります。

PCからの再生だけでもブラウザーやiTunesを使った方法など複数方式を選択できますが、アプリを使ってスマートフォンでNAS上の音楽を再生したり、DLNAに対応したオーディオ機器やテレビを使ってネットワーク経由でNASから音楽を再生したり、ChromecastやApple TVなどの機器に音楽を配信することまでもできます。

つまり、NASに音楽を集約することで、これまでPCとスマートフォンくらいでしか楽しめなかつた音楽が、一気にその活用の幅を広げることになるのです。

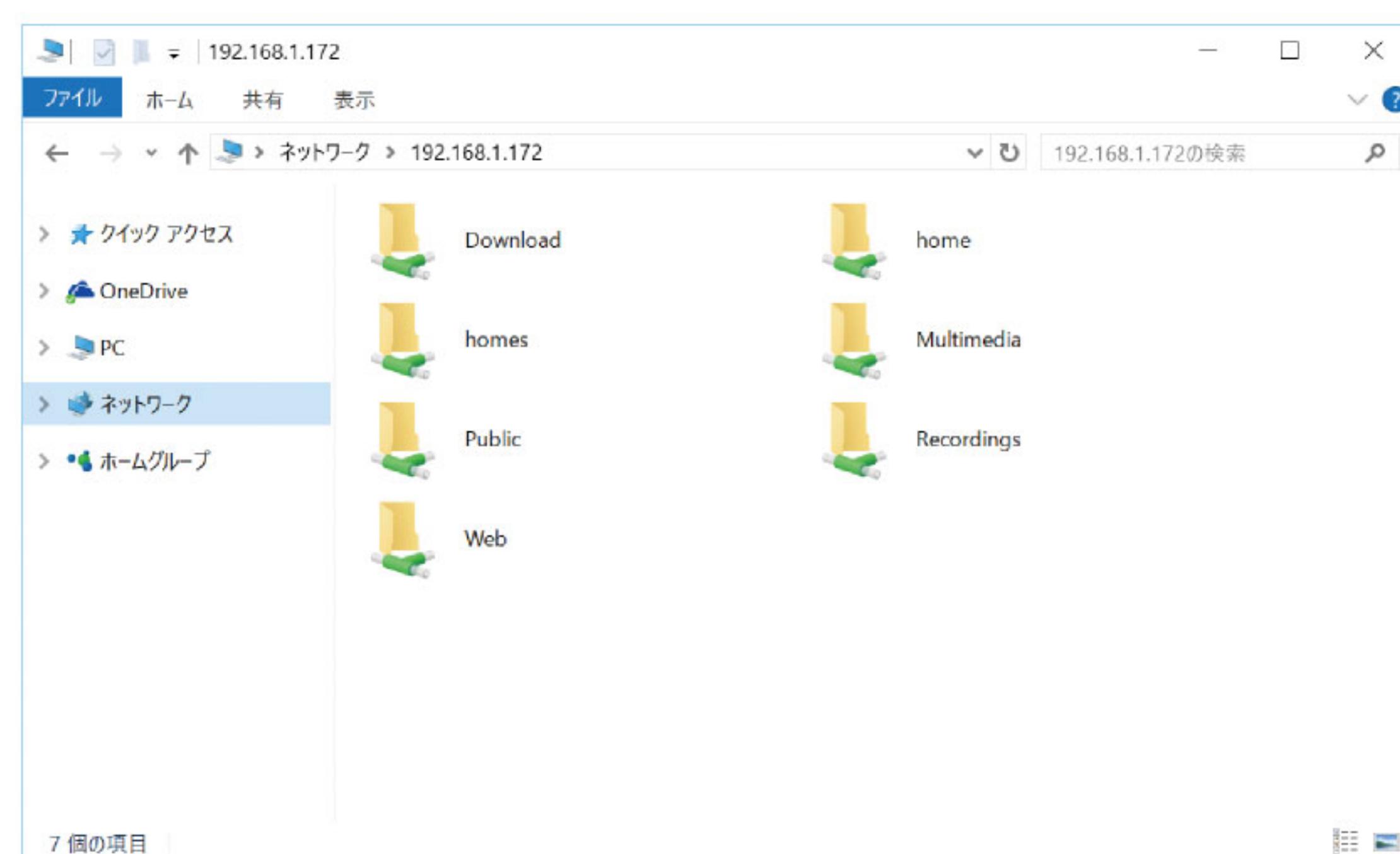
「Jukebox」と言うと、ちょっとレトロな感じがするかもしれません、現代のNASは数々の機能によって各段に進化した最強のデジタル・Jukeboxでもあるのです。

音楽データの移行はコピーするだけ

それでは、実際にQNAPのNASで音楽を楽しむ方法を見ていくことにしましょう。

まずは、PCで管理していたデータをNASに移行しましょう。すでにネットワーク上にNASがセットアップされているのであれば、音楽データの移行は簡単です。エスクローラーでミュージックフォルダーに保存されている音楽データをNASの共有フォルダーにコピーするだけでかまいません。

ただし、コピー先には注意が必要です。QNAPのNASには「Multimedia」という共有フォルダーが標準で用意されていますが、ここにコピーした場合、ほかのユーザーとデータが共有される可能性があります。音楽データは、個人の趣味が現れるものなので、必ずしも家族などで共有できる必要はありません。個人的なデータはホームフォルダーに保存するといいでしょう。



プライベートな音楽はhomeフォルダーに保存する

なお、QNAPのNASが対応している音楽形式は、AIFF、APE、FLAC、M4A、M4A Apple Lossless (ALAC)、MP3、Ogg Vorbis、WAV(PCM/LPCM)、WMA、WMA PRO、WMA VBRとなります。

Windows Media Playerで取り込んだ音楽(WMA)やiTunesで取り込んだ音楽(M4A)にも対応しているので、形式を変換することなく、そのままコピーするだけで利用できます。

また、FLACなどのハイレゾ音源に対応しているのも大きな特徴です。オーディオ機器などを組み合わせて、より高い音質で音楽を楽しみたいときにも活用できます。

Music Stationで音楽を再生する

NASに保管した音楽は、いろいろな方法で再生することができますが、もっとも手軽なのは「Music Station」というNAS上で動作するアプリを使う方法です。

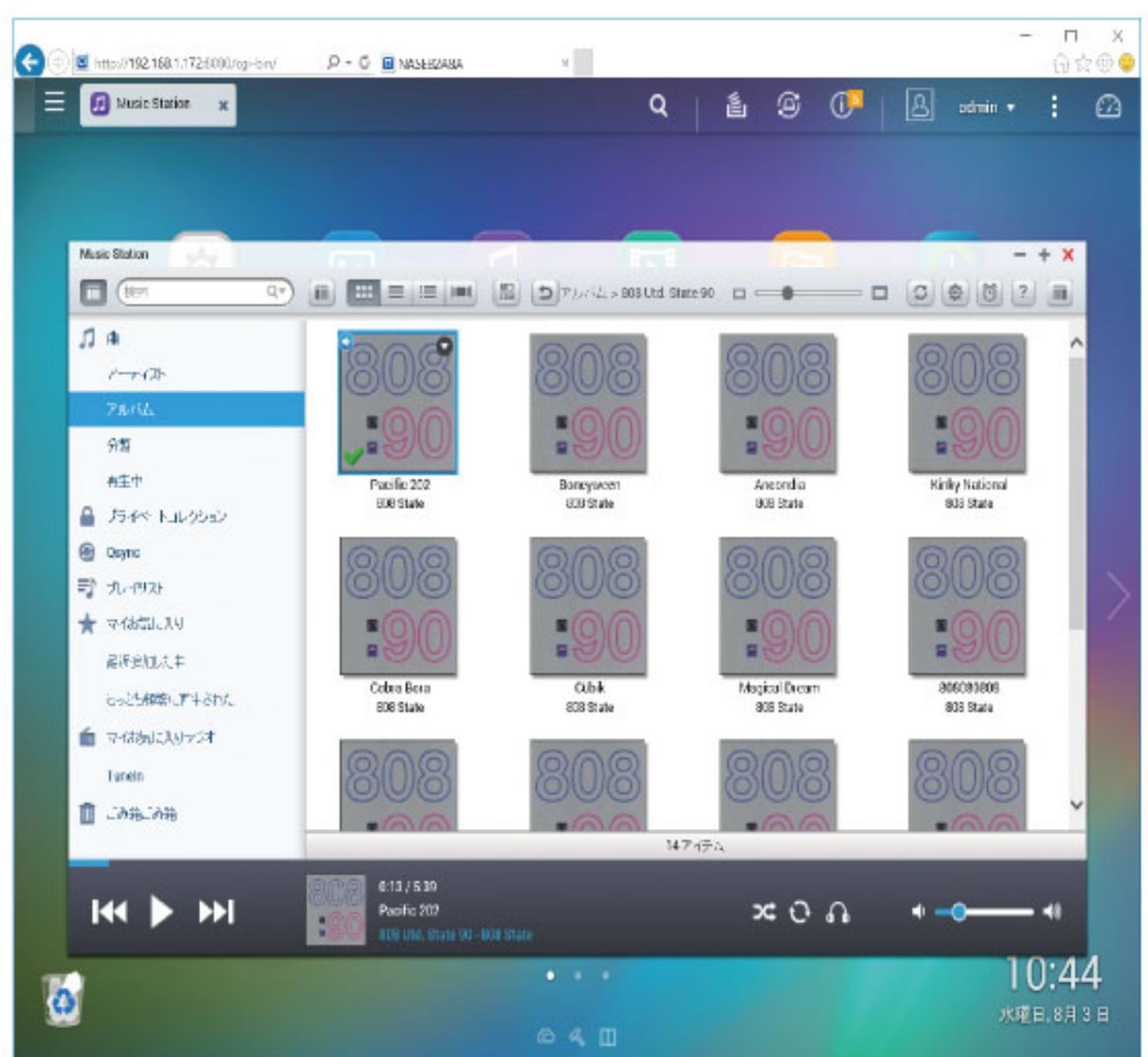
ブラウザーを使ってQNAPの設定画面にアクセスし、「Music Station」を起動します。左側にメニューが表示され、右側にNASに保存した音楽データのアルバムアートが表示されます。

メニューの項目をクリックして、アーティストやアルバムから曲を選択し、ダブルクリックすればPCのスピーカーから再生が開始されます。

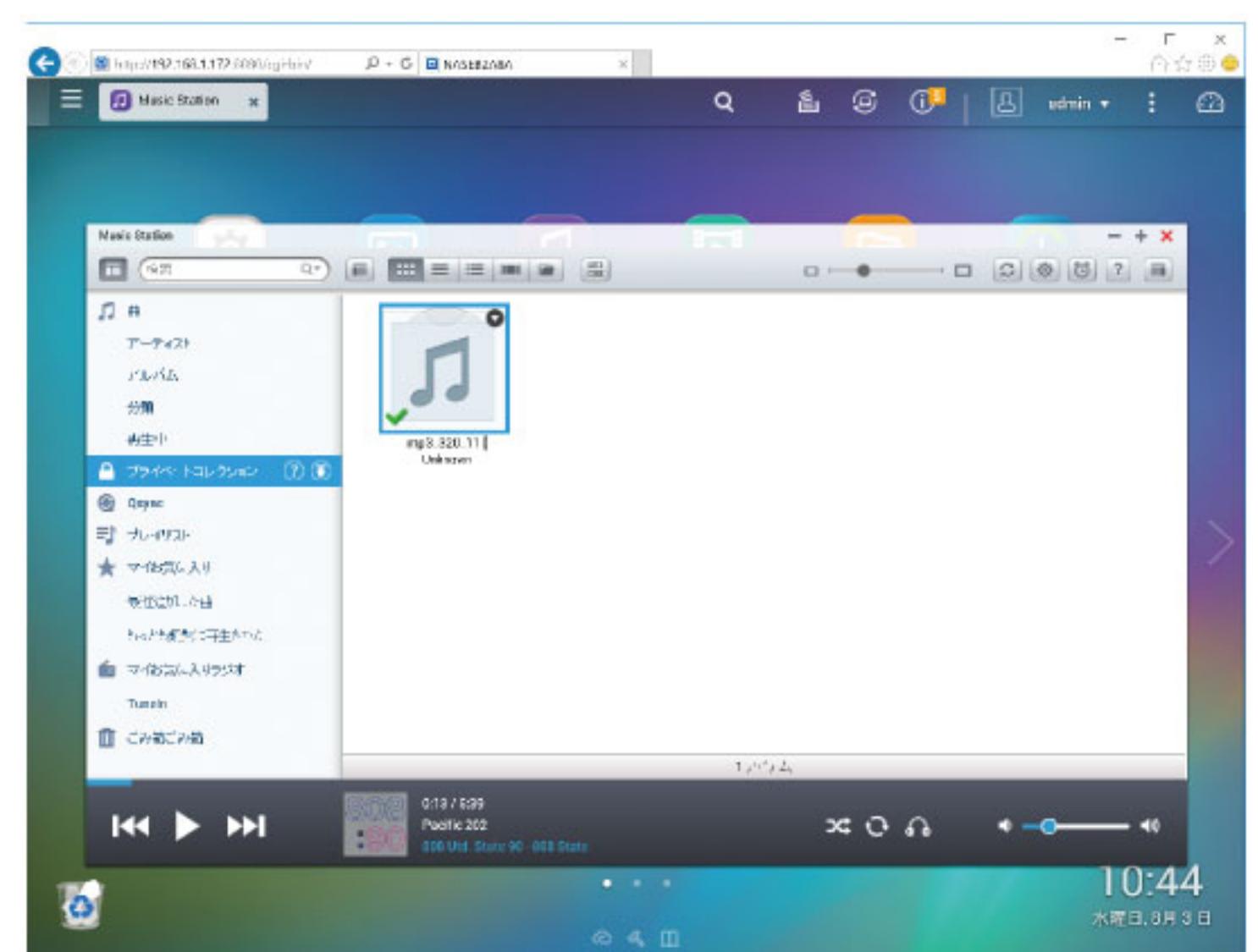
ちなみに、上記コピー時にhomeフォルダーに保存したデータは、「プライベートコレクション」をクリックすることで表示できます。ここに表示された音楽は、ほかのユーザーには表示されない仕様となっています。

もちろん、プレイリストを作成することも可能です。メニューから「プレイリスト」をクリックし、「+」で新しいプレイリストを作成します。あとは、プレイリストに追加したい曲をドラッグして、作成したプレイリストのメニュー項目にドラッグするだけです。直感的な操作ができるのもMusic Stationの特徴です。

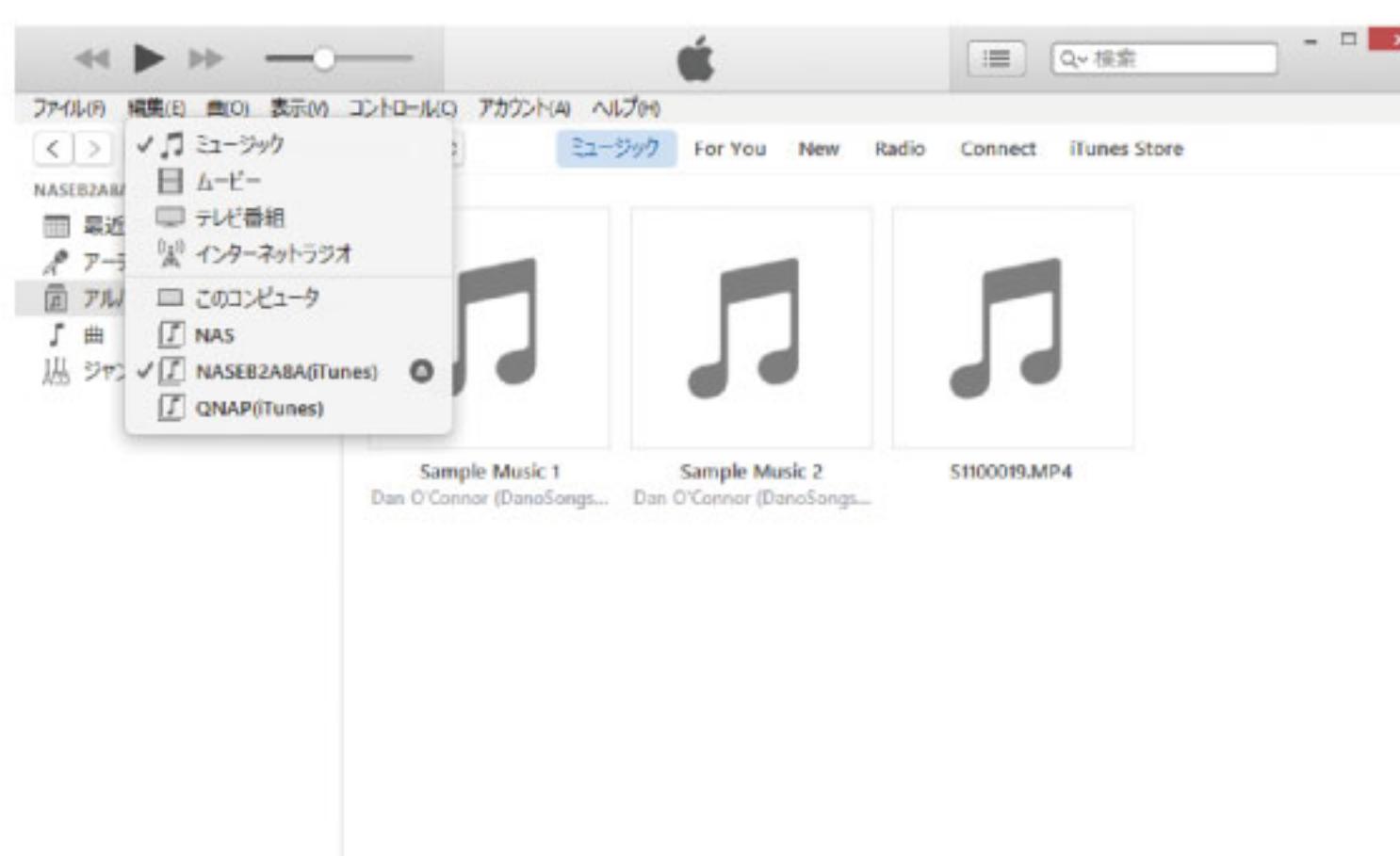
もしも、iTunesをPCで利用している場合は、iTunesからQNAPのNASを参照することもできます。QNAPのNASには、iTunesサーバー機能が搭載されているので、iTunesのメニューから接続先としてQNAPのNASを選択すると、Multimediaフォルダーに保存した音楽をiTunesで再生することが可能です。



Music Stationを使って音楽を再生する



プライベートコレクションの音楽は自分が再生できる



iTunesからも再生可能

スマートフォンやほかの機器で再生する

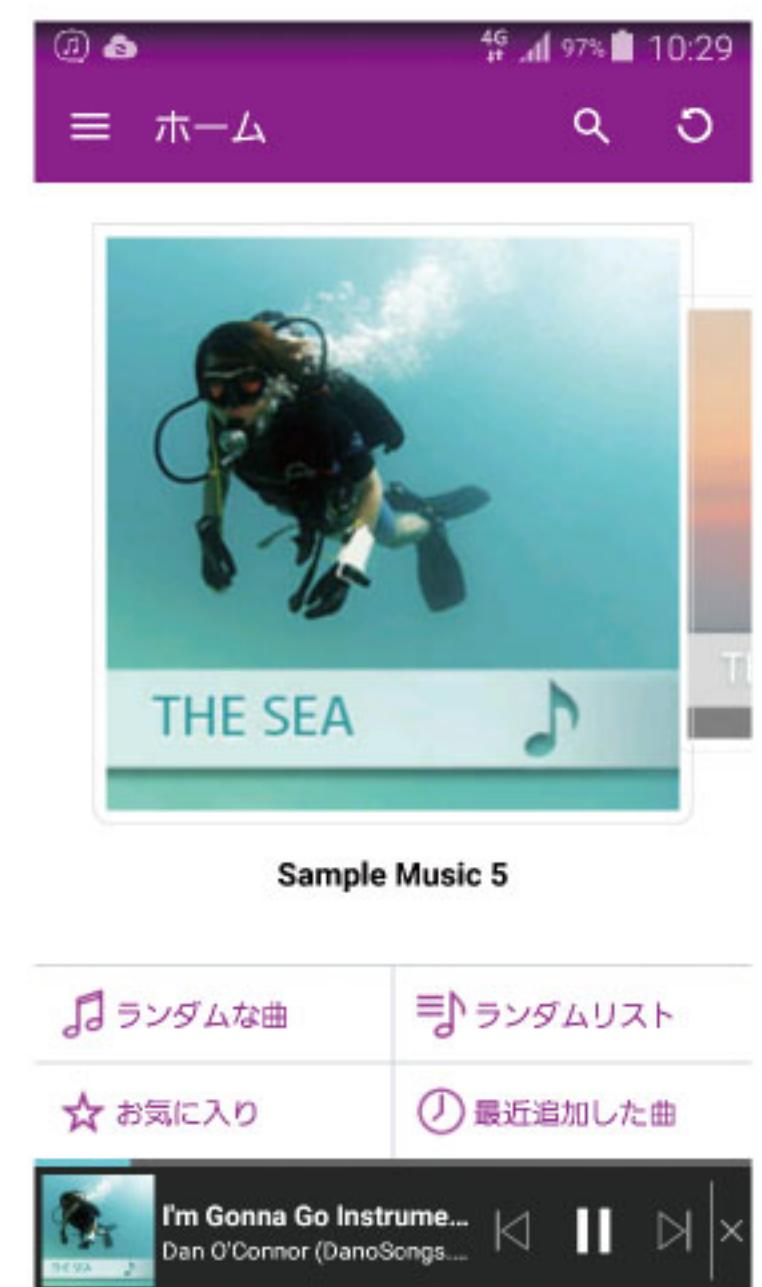
NASに保存した音楽は、PCだけでなくスマートフォンでも再生できます。AndroidやiOS向けに提供されている「Qmusic」アプリをダウンロードし、接続先としてQNAPのNASを選択すると(家庭内なら自動検出で接続可能)、NASに保存された音楽が表示され、そこから好みの曲を再生できます。

スマホアプリ

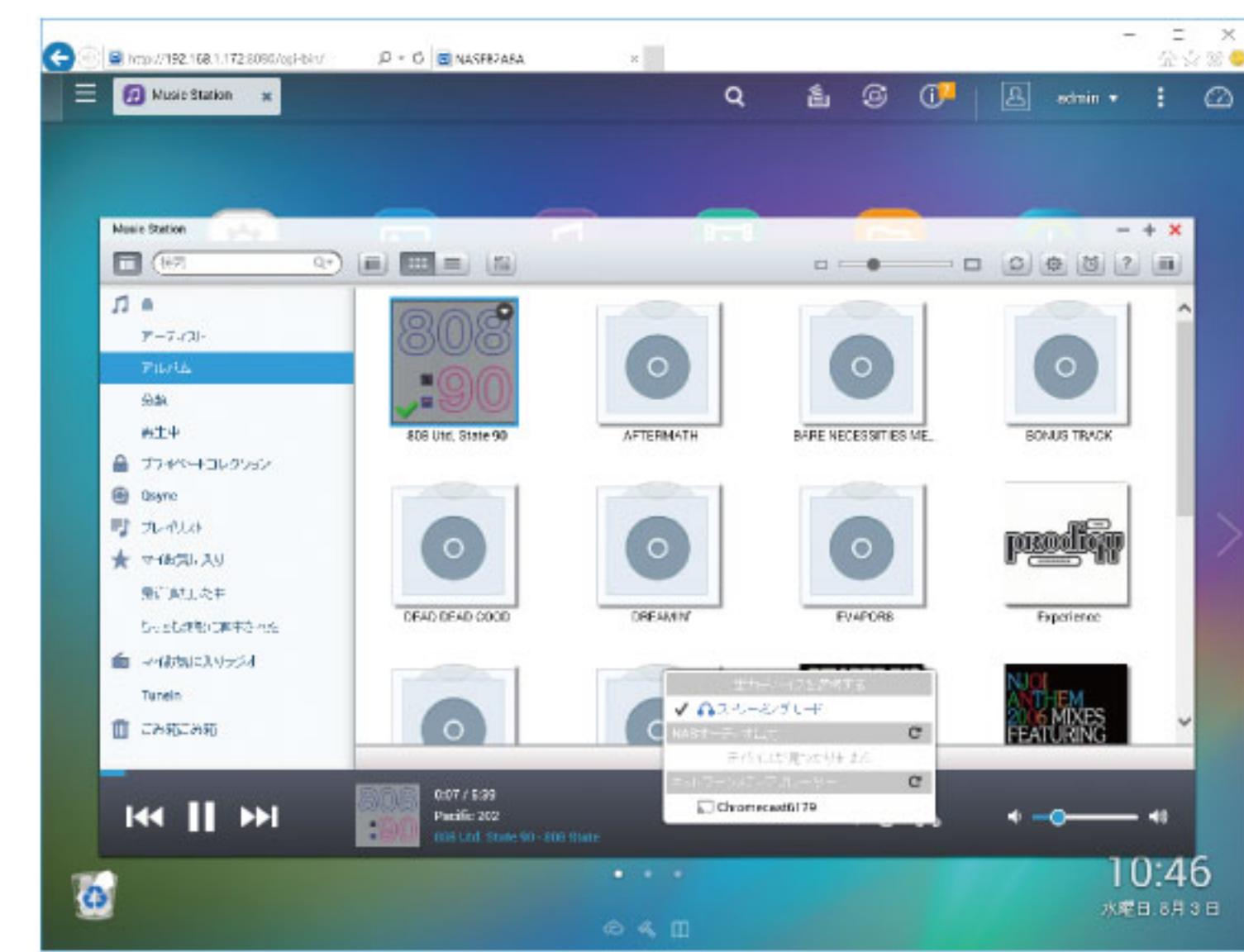


Qmusic

スマホから自分の音楽コレクションを聞くことができます。



Qmusicを使えばスマートフォンから再生可能。外出先でも音楽を楽しめる



再生先を選択すればChromecastなどでも再生可能

もちろん、myQNAPCloudなどをを利用してNASにインターネット経由でのアクセス可能な状態にしておけば、外出先でも音楽を再生できます。LTE通信だとパケットを消費するため、基本的にはWi-Fi環境での利用を推奨をしますが、どこでも自分のコレクションを楽しめるは大きな魅力です。

一方、家庭内で利用するときは、DLNA機器やChromecastなどをを利用して音楽を再生することができます。DLNA機器(テレビやオーディオ機器)の場合は、機器側での操作でNASを参照して音楽を再生するのが簡単です。

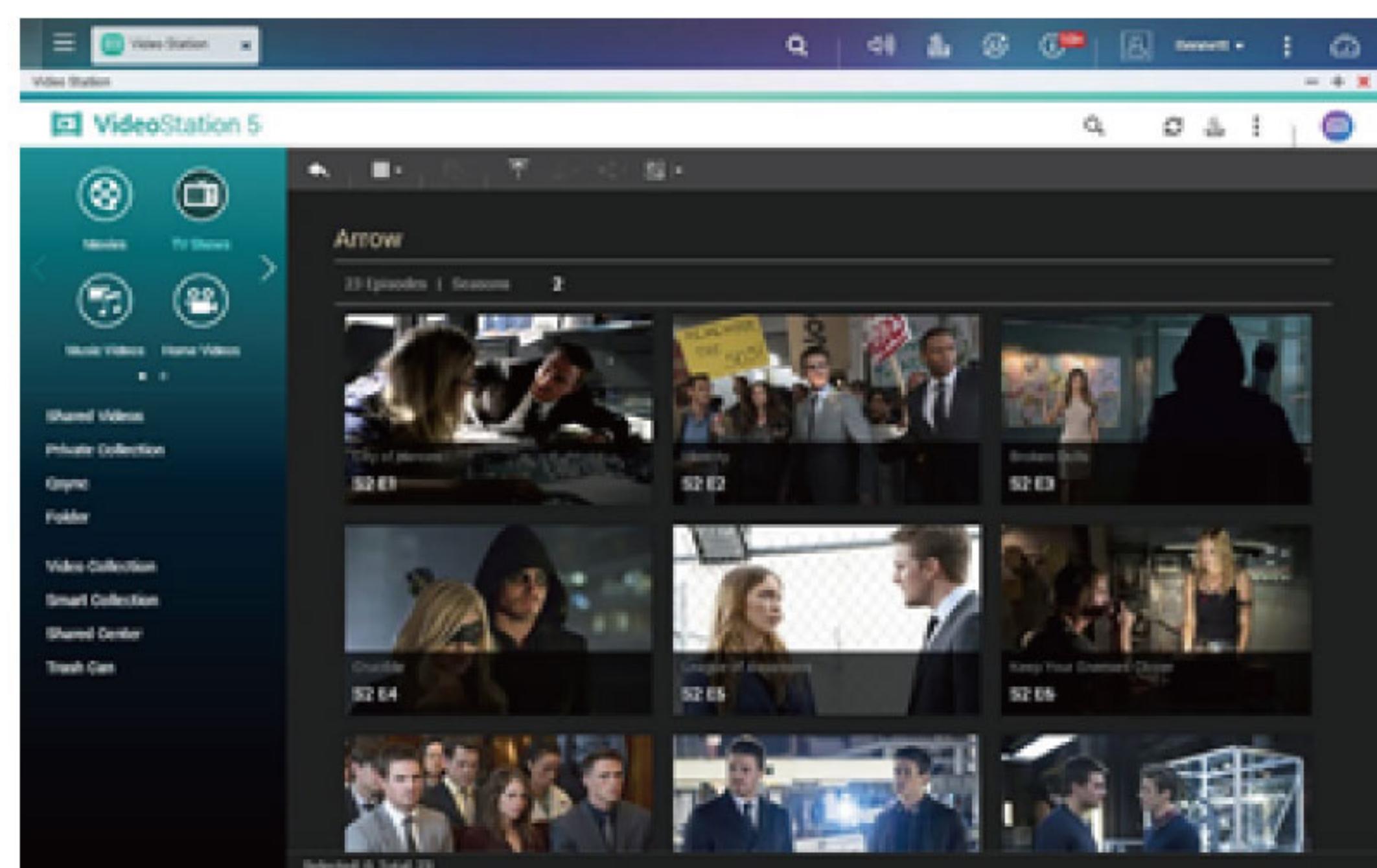
ChromecastやAppleTVの場合は、Music Stationから再生操作をします。音楽の再生中に、「出力デバイスを選択する」ボタンをクリックすると、テレビに接続したChromecastなどの機器が自動検出されます。これを選択すれば、Music Stationで再生中の音楽がChromecast経由でテレビなどで再生されます。

このように、NASを活用すれば、音楽を保管できるだけでなく、いろいろな方法で楽しめます。普段の生活の中で、より音楽を楽しめるようにしておくといいでしょう。

6 QNAPで動画をもっと自由に楽しもう

6.1

あのときの思い出もすぐに再生できる! NASで動画を効率的に管理しよう



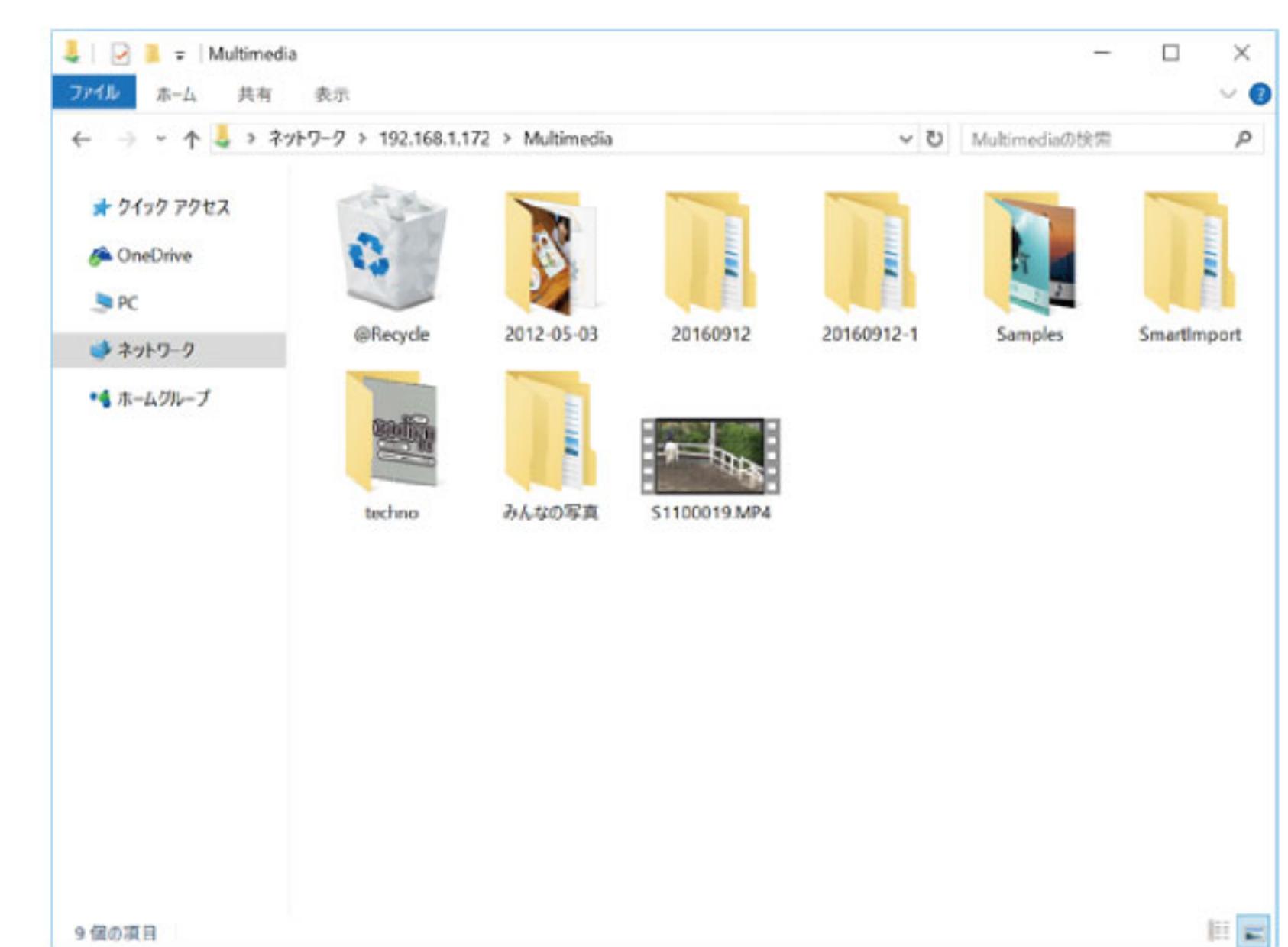
子どもの発表会やペットの日常、旅行の思い出など、ビデオカメラで撮影した動画がたくさんたまっていますか？ NASを使えば、そんな動画データを大量に保存できるうえ、見たい動画を探すのも簡単。スマートフォンやテレビなどからも動画を楽しめます。「Video Station」を使って効率的に動画を管理してみましょう。

ワンタッチコピーで取り込む

それでは、実際にQNAPのNASで動画を管理する方法を見ていくことにしましょう。

まずは動画データの保存から紹介します。動画データを保存する方法はいくつかありますが、もっとも簡単なのは、やはり直接コピーすることです。

パソコンにすでに取り込んだ動画がある場合は、QNAPの共有フォルダーを開いて、そこに動画ファイルをコピーするだけです。



共有フォルダーにコピーするだけ

もしもビデオカメラに保存されたままのときは、ビデオカメラから直接QNAPに動画を取り込むこともできます（USBケーブルで接続可能で、本体メモリやメモリカードに動画を保存するタイプのビデオカメラの場合）。

ビデオカメラをQNAP本体前面のUSBポートに接続します（機種によっては、接続後にモードを選択する画面が表示されるのでパソコン接続を選択します）。

USBポート近くにある「コピーボタン」を押すだけで自動的にコピーできます（※初回のみワンタッチコピーボタンの設定が必要です）。

準備ができたら、QNAPの本体前面にあるコピーボタンを2秒ほど押します。すると、USBランプが点滅し、ビデオカメラに保存されている動画データが自動的に「Multimedia」フォルダーへとコピーされます。



前面のUSBポートを使えばビデオカメラからワンタッチで動画を取り込める

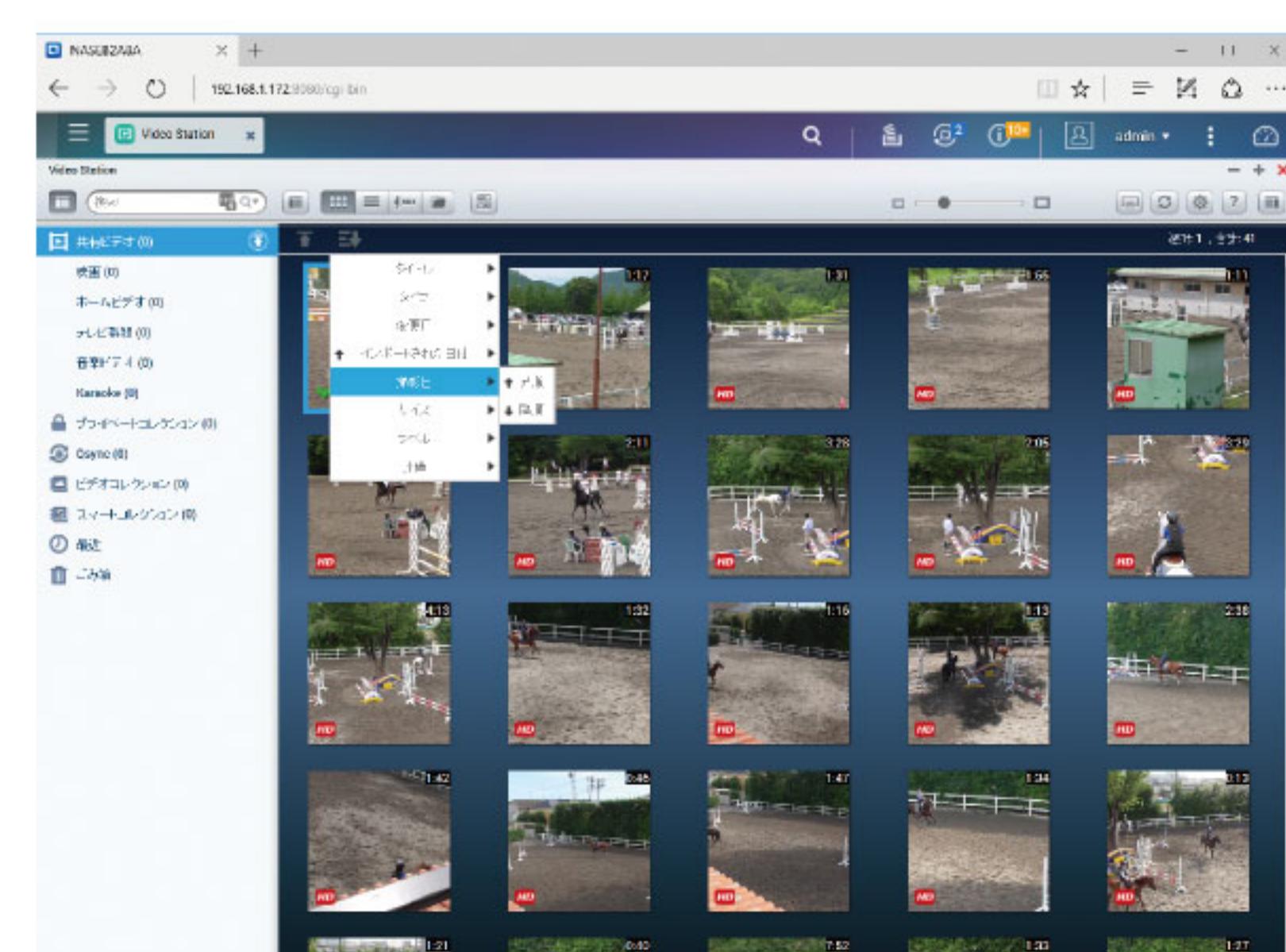
Video Stationで動画を再生する

無事に動画を保存できたら、動画を再生してみましょう。

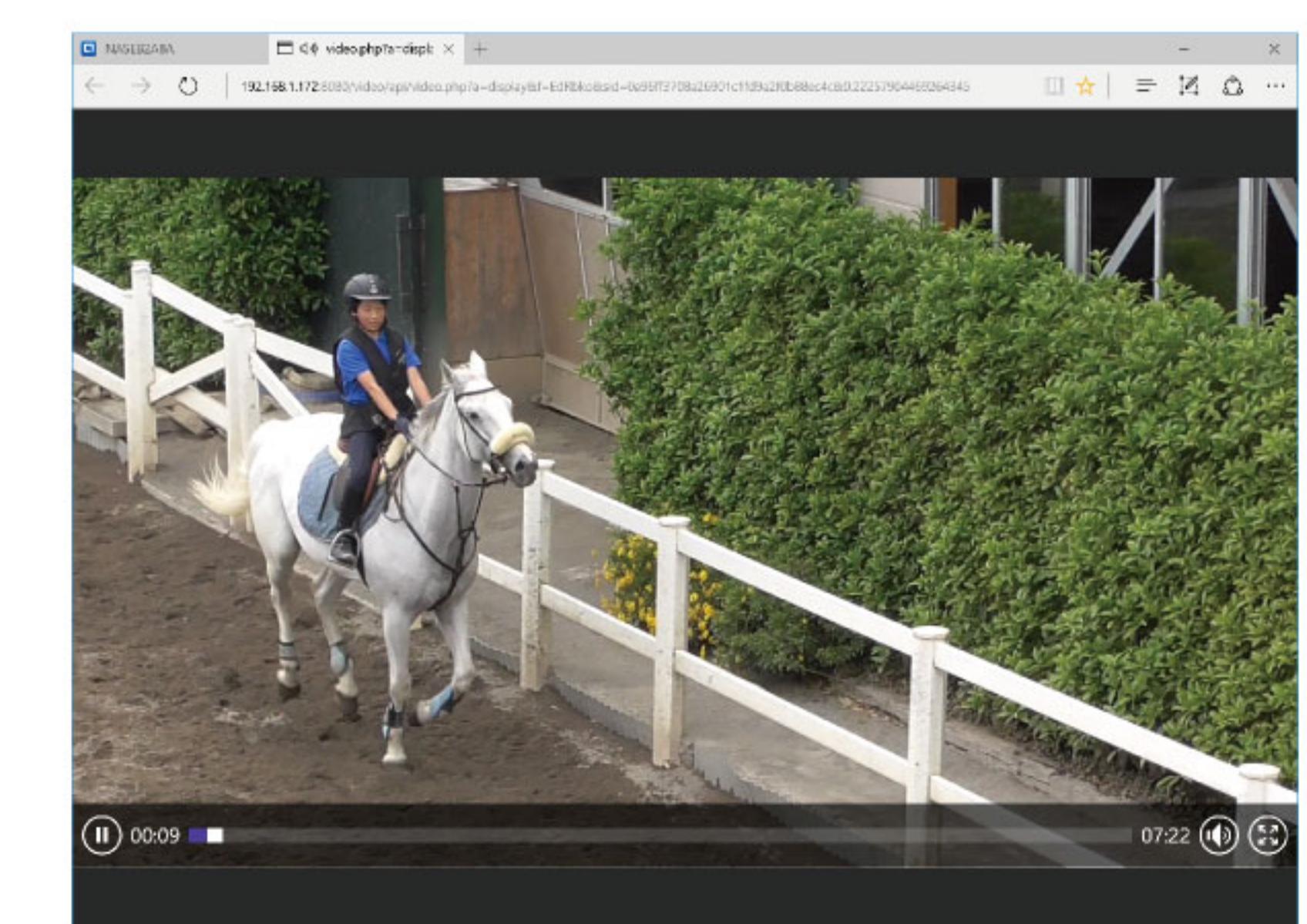
ホーム画面から「Video Station」を起動し、左側のメニューから「共有ビデオ」を選択します。すると、さきほど「Multimedia」にコピーした動画ファイルが表示されるはずです（homeフォルダーにコピーした動画は「プライベートコレクション」から表示）。

ファイル名ではなく、動画のサムネイルが表示されるので何を撮影した動画なのかが一目でわかります。標準ではインポートされた日付で並べられていますが、撮影日などで並べ替えることも可能です。

一覧から動画をダブルクリックすると、新しいタブで動画の再生が開始されます。簡単な操作で再生できるので、次々に動画を見ることができるはずです。



取り込んだ動画は撮影日などで並べ替えができる



動画再生の様子。ブラウザーでそのまま動画を再生できる

スマートフォンやほかの機器で再生する

スマホアプリ



Qvideo

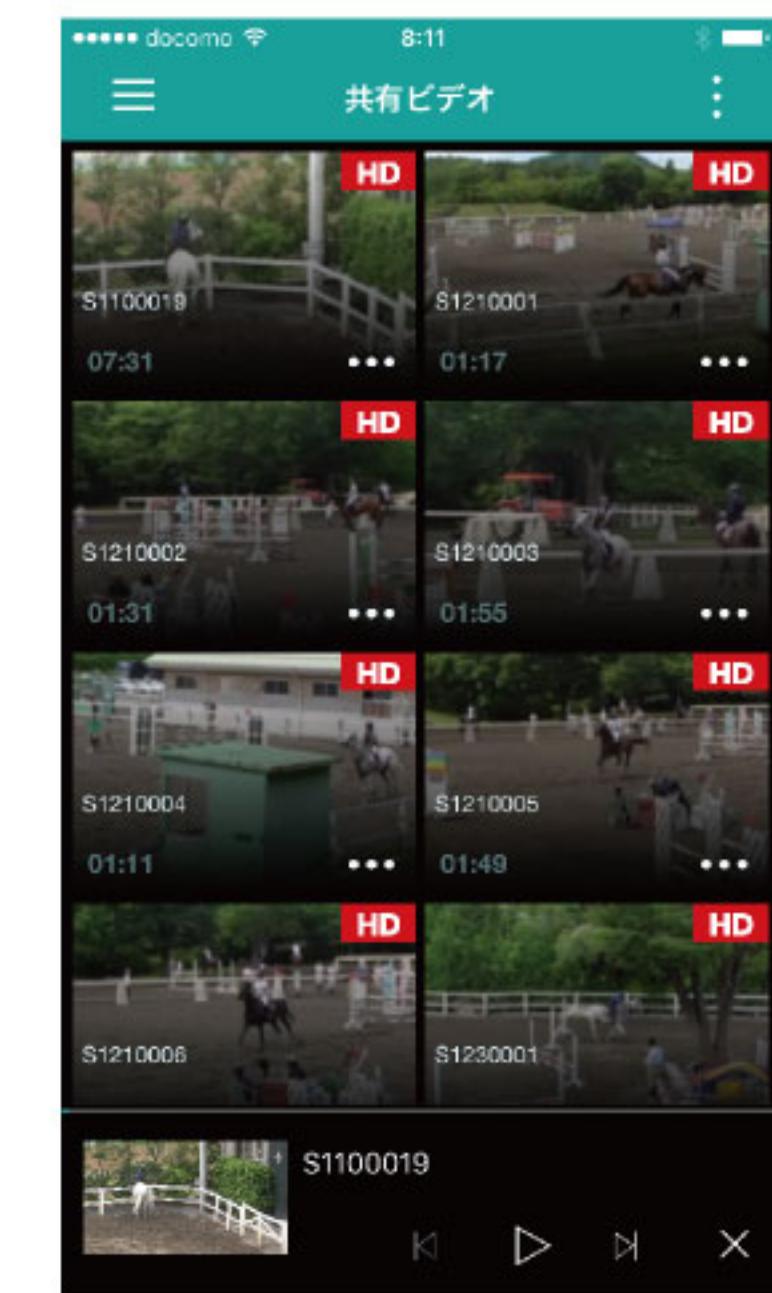
スマホから自分の動画コレクションを再生したり、動画サイズの変換ができます。

QNAPに保存された動画は、パソコンだけでなくスマートフォンでも再生できます。AndroidやiOS向けに提供されている「Qvideo」アプリをダウンロードしましょう。

接続先としてQNAPを選択すれば(家庭内なら自動検出で接続可能)、保存された動画が一覧表示され、見たい動画をタップするだけで再生を開始できます(動画形式によってはスマートフォンで再生できない場合もあります)。

なお、外出先からも動画を再生することはできますが、高画質ビデオの場合は通信量が多くなるため必ずWi-Fiで接続した状態で再生するようにしましょう。

家庭内で利用するときは、DLNA対応テレビを使うといいでよい。QNAPは標準でDLNAサーバー機能が有効になっていますので、DLNA対応テレビから参照することで保存されたビデオをすぐに再生できます。



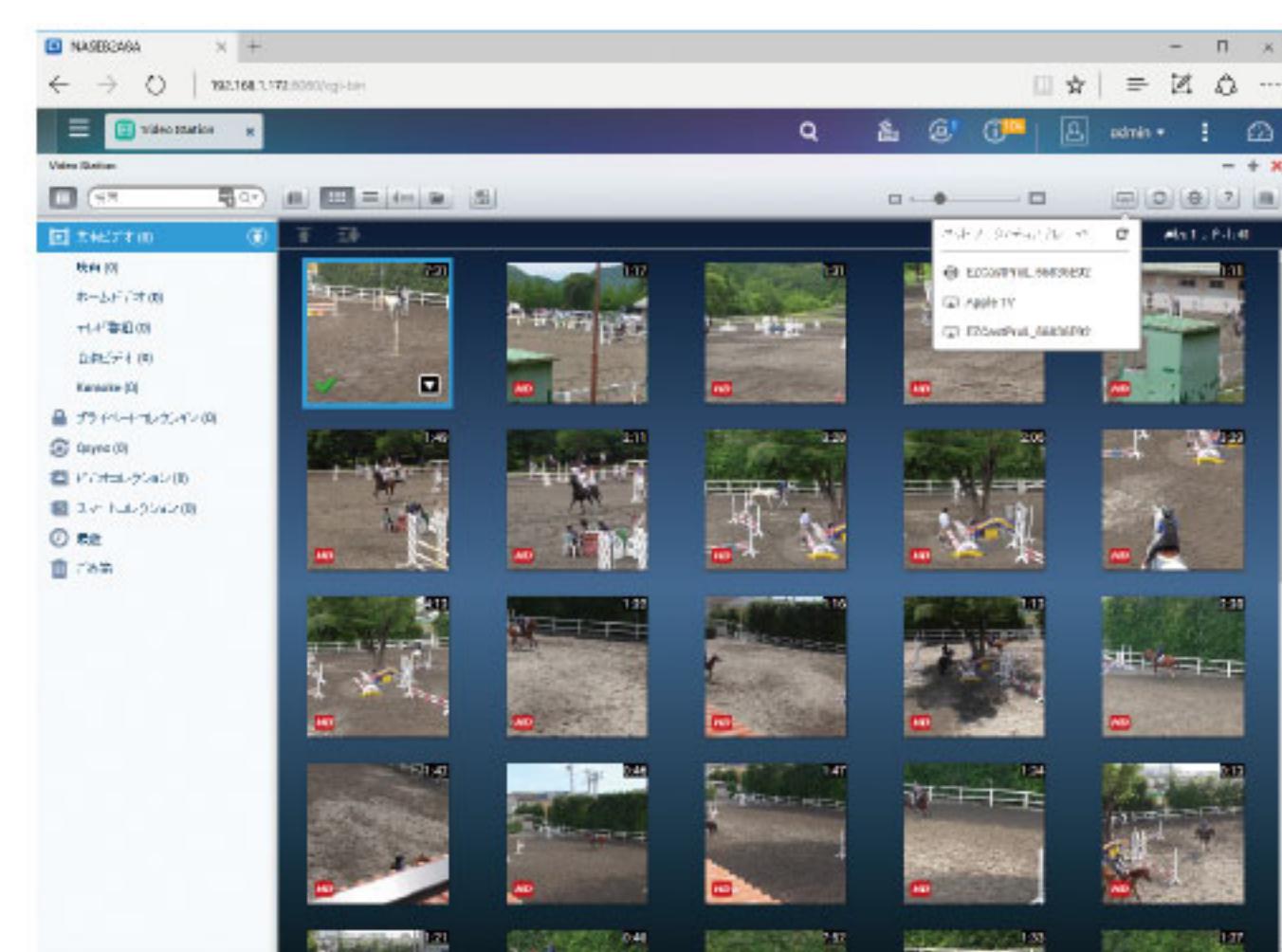
スマートフォンでも簡単に動画を再生可能



DLNAに対応したテレビを使えばリビングなどでも取り込んだ動画を再生できる

もしも、ChromecastやAppleTVを利用している場合は、Video Stationから再生操作をします。ツールバーの「ネットワークメディアプレーヤー」ボタンをクリックすると、ネットワーク上に存在するプレーヤーが表示されます。再生したい機器を選べば、その機器で選択した動画が再生されます。

このように、QNAPを活用すれば、動画を大量に保存できるだけでなく、いろいろな方法で再生できます。動画の管理に活用してみましょう。



再生先を選択すればAppleTVなどで再生可能

6.2

お気に入りの動画を持ち歩きたい？ トランスコードで動画をスマホに最適化しよう



QNAPを使えば、大容量の動画も楽々保存できるうえ、VideoStationで再生も簡単です。しかし、スマートフォンで視聴するには容量が大きいままでは、再生も転送にも苦労します。トランスコード(変換)機能を使って動画をスマートフォンに最適化してみましょう(※対応モデルのみ)。

トランスコードで動画サイズをワンタッチ変換

対応モデルなら特に意識することなくトランスコード機能を利用することができます。

スマホアプリ「Qvideo」でQNAPに接続後、動画の再生操作をしてみましょう。すると、再生時のビデオ品質を選択する画面が表示されます。これがトランスコード機能です(iOS向けQvideoでは再生後に設定から「解像度」をタップして品質を選択)。



トランスコードに対応した機種の場合、Androidからの再生時にトランスコードの画面が表示される

「オンザフライ」というのは、動画を再生しながらリアルタイムで変化することを指します。つまり、動画の再生を開始すると、QNAPがその動画を指定した品質に変換しつつ、変換が終わったシーンから順次スマートフォンに送って再生するというしくみになります。

7 QNAPで家中どこでもテレビで動画を楽しもう

240P、360P、480P、720P、1080Pというのは、映像の縦方向の解像度を示しています。数字が大きいほど高画質になりますが、その分、動画のデータ量が増え、大容量のデータ通信が発生します。もちろん、回線も速くないと快適に再生できません。

一方、360Pなど、数字が小さい解像度では、画質が荒くなりますが、データ容量が小さくなります。スマートフォンで再生する場合は、360P前後を選択するといいでしょう。

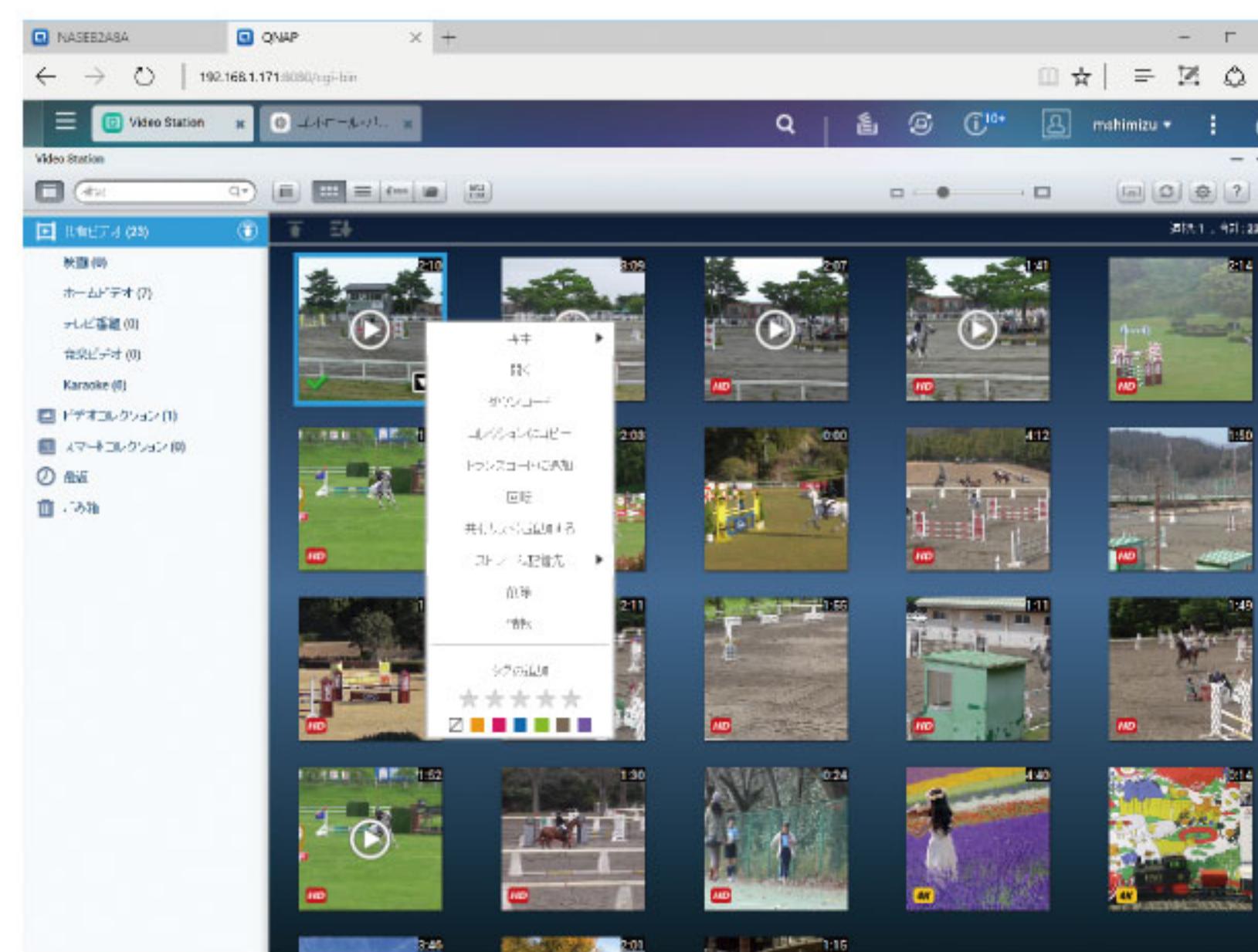
もちろん、Wi-Fiで接続している場合は、トランスコードなしで元の動画を再生することもできます。再生時に「元のファイル」を選択して再生しましょう。

スマホアプリ

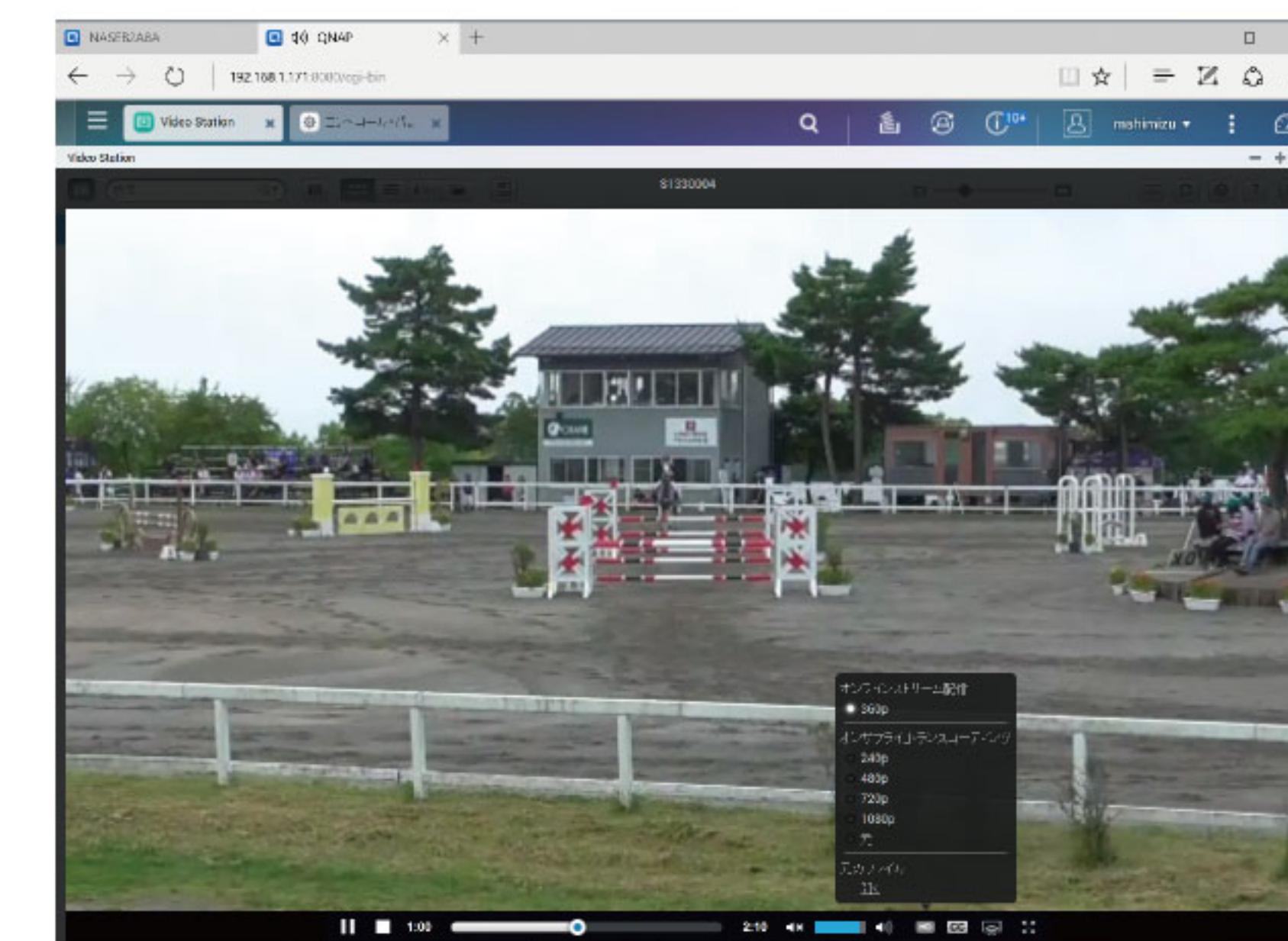


Qvideo

スマホから自分の動画コレクションを再生したり、動画サイズを変換できます。



Video Stationから「トランスコードに追加」を選択すると手動でトランスコード可能



トランスコードされた動画は品質設定で選択可能。品質を選択してオンザフライでトランスコードすることもできる

ちなみに、どれくらい容量が違うかというと、撮影時間2分ほどの動画の場合、ビデオカメラで撮影したオリジナルの動画(1080P)は約340MBほどですが、360Pにトランスコードすると42MBほど大幅に小さくすることができます。

7.1

テレビの横にNASはいかが? HD Stationで写真や動画をテレビで楽しむ



どちらかといえば裏方のイメージがあるNASですが、QNAPのNASはテレビにつないで使うことができるマルチメディア仕様。HD Stationを使えば、NASに保存された写真や動画をリモコンを使って手軽にテレビで楽しむことができます。

HDMIがあるならテレビの横に

「いちいちパソコンを起動するのも面倒だし、スマートフォンの画面では迫力に欠ける……」。

たくさんの写真や動画をNASに保存したまではよかつたものの、その再生方法に悩みを抱えている人も少なくないかもしれません。

QNAPのNASなら「HD Station」で動画を楽しめます。

本体背面にあるHDMIポートを使って、家庭用のテレビと接続することで、NASの画面を直接テレビに表示することができます。リモコンを使ってNASを操作することもできるので、写真や動画を手軽に大画面のテレビに映し出すことができます。

写真や動画などのメディアファイルを扱えるだけでなく、ブラウザーを使ってWebページを表示することもできるので、いつでもすぐに使えるリビングのインターネット端末としても活用することができます。

NAS本体にHDMI端子を搭載したモデルでのみ利用可能な機能となります。逆に本体にHDMI端子が搭載されているモデルを使っているなら、部屋の隅や棚の上などではなく、堂々とテレビの横にNASを設置したほうが、より活用の幅も広がることでしょう。



トランスコードされた動画は品質設定で選択可能。品質を選択してオンザフライでトランスコードすることもできる

HD Stationを有効化

HD Stationの使い方は簡単です。

まず、NASをテレビの横などに設置し、HDMIケーブルを使ってNASとテレビを接続します。この状態で、テレビの入力を切り替えれば、NASの画面がテレビに表示されます。

この状態で、ブラウザーを利用して設定画面にアクセスし、「コントロールパネル」の「アプリケーション」から「HybridDesk Station」を選択すると、設定画面が表示されます。「今すぐ開始する」をクリックしてHD Stationをインストールしましょう。

HD Stationでメディアを楽しむ

HD Stationの準備が完了すると、テレビの画面にログイン画面が表示されます。リモコン(付属またはオプション)か、USB接続のマウスやキーボードを利用して、アカウントを選択後、パスワードを入力してログインしましょう。

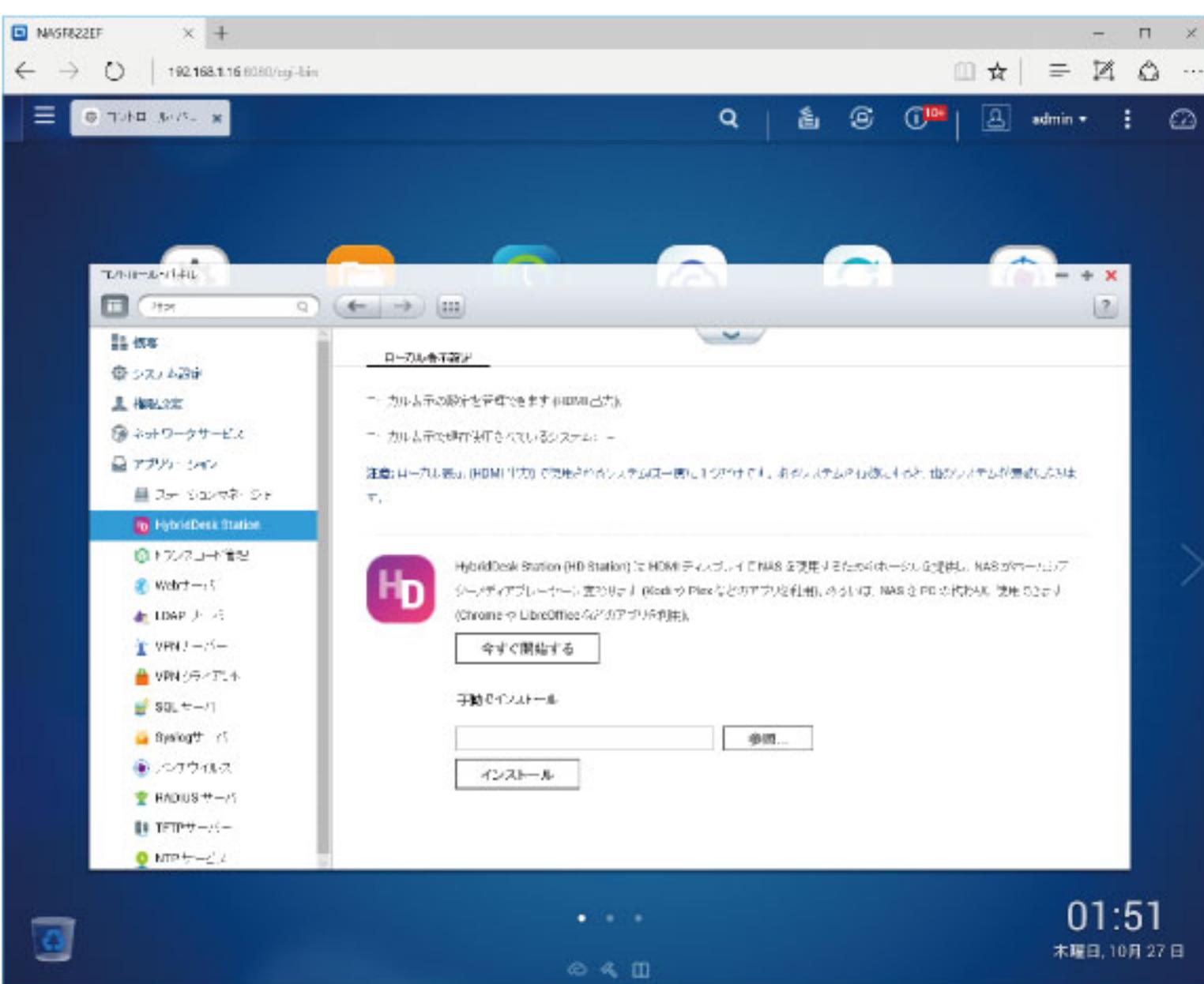
ログインが完了すると、インストールしたアプリの一覧が表示されます。動画を再生できるアプリは、いくつもあります。マウスとキーボードで操作できるなら「VideoStation HD」を利用することもできますが、スマートアプリQremoteでも操作できます。

スマホアプリ



Qremote

モバイルデバイスからHD Stationを操作できます。モバイルデバイスをリモコンのように使えます。



トランスコードされた動画は品質設定で選択可能。品質を選択してオンザフライでトランスクードすることもできる



HD Stationの画面。テレビの画面を見ながら、さまざまなアプリをリモコンで利用できる

7.2

別の部屋のテレビでゆっくり動画を楽しみたい メディアサーバー機能でネットワーク経由で動画を再生する

メディアサーバー機能を利用すると、NASに保存された動画や写真をネットワーク経由で別の機器から再生できます。パソコンやスマートフォンだけでなく、リビングのテレビなどでも動画を楽しんでみましょう。



HDMI接続ではなくても大丈夫

DLNAサーバー機能を利用した再生は、一般的な家庭用テレビの多くが搭載するネットワーク機能を利用できるうえ、NAS側も特別なモデルは必要なく、QNAPのNASならほとんどのモデルで利用できる機能となります。

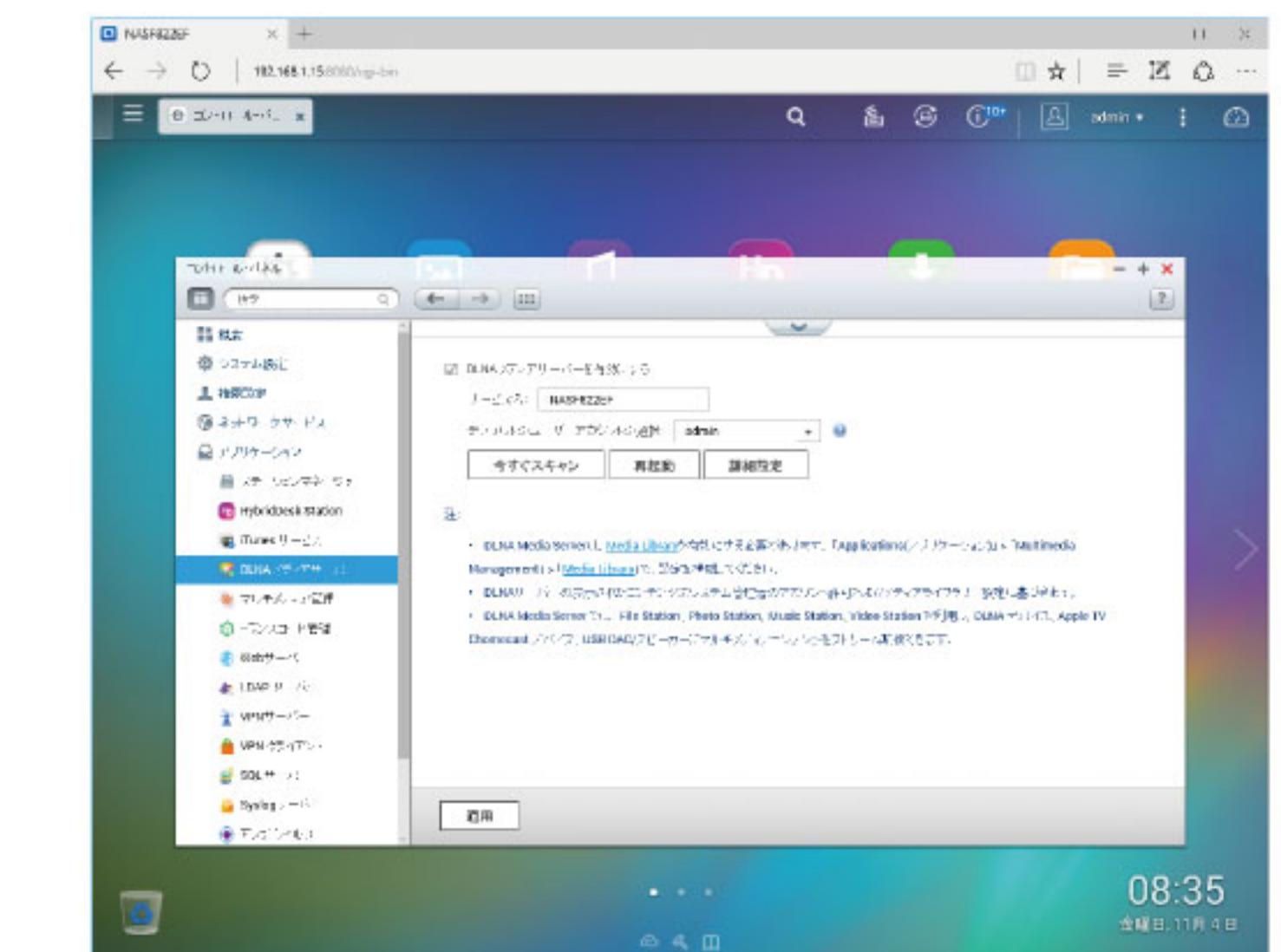
ネットワーク経由での再生となりますので、NASと再生用のテレビが離れた場所にあっても利用できます。また、DLNA対応の動画再生アプリをインストールすれば、テレビだけでなく、パソコンやスマートフォン、タブレットなどでも動画を再生できるようになります。

とても柔軟で、汎用性の高い機能ですので、ぜひ活用することをオススメします。

DLNAサーバー機能の確認

DLNA機能を利用する場合、実はNAS側の設定はほとんど必要ありません。QNAPのNASは、標準でDLNAサーバー機能が搭載されているうえ、初期設定時にホームユーザー向けのセットアップを選択した場合、標準で機能も有効化されています。

このため、テレビやゲーム機に搭載されているメディアプレーヤー機能を利用することで、すぐに動画を楽しむことができます。



標準で有効に設定されている



テレビのDLNAプレーヤー機能を使って再生。サーバーやメディアの種類、フォルダーを選択する

8 大切なデータをしっかりバックアップしよう



QNAPには簡単で便利なバックアップシステムが複数用意されています。お使いのデバイスの環境や必要に応じてバックアップを設定しておくと良いでしょう。以下で紹介しているのは代表的なバックアップ方法です。

8.1 Windows PCを簡単バックアップ



QNAP NetBak Replicatorで、複数のWindows PCからQNAP NASへのデータをバックアップ(リアルタイム同期、定期バックアップ、自動バックアップ)できます。また、インターネットを利用してリモートサーバーにバックアップすることもできます。データの損失を防ぐためには定期バックアップや自動バックアップを設定しておくと安心です。

8.2 Mac OS XのApple Time Machineをサポート

Mac OS Xユーザーは簡単にデスクトップデータをバックアップできます。Macデータのバックアップ専用とする容量をNASに設定することもできます。以前に外部ストレージデバイスを利用してデータのバックアップしていたのと同じくらい簡単です。QNAPの直感的に使えるユーティリティ「QFinder」ですぐに設定可能です。



8.3 USBをつなぐだけのワンタッチコピー

デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ、USBディスクなどのUSBデバイスをフロントパネルのUSBポートに接続し、「コピー」ボタンを押すだけで、PC不要で瞬時にデータをNASにバックアップできます。(※初回のみワンタッチコピーの設定が必要です)



column より強力なバックアップのためにはRAID(レイド)設定をしよう

RAIDとはRedundant Arrays of Inexpensive Disksの略で、複数のHDDへ分散書き込みを行うことでHDDを冗長化します。万が一の故障の際のデータ保護に役立ちます。RAIDにはRAID0から6までレベルがありますので、運用にあわせて設定すると良いでしょう。QNAP NASではRAIDボリュームを簡単かつ便利に拡張できます。

※RAIDはデータ保護に有効な機能ですが、データの完全な保護を保証するものではありません。重要なデータは必ずバックアップしましょう。

もっとQNAPを知りたい方は、QNAP(日本語ページ)をご覧ください!
<https://www.qnap.com/ja-jp/>